

第2回教育委員会臨時会会議録

平成23年8月2日（火）

場所：国立市役所第1・2会議室

出席委員	委員	長	佐藤路子
	委員長職務代理者		米田雅子
	委員		中村雅子
	委員		嵐山光三郎
	教育長		是松昭一
出席職員	教育次長		兼松忠雄
	教育庶務課長		武川芳弘
	学校指導課長		渡辺秀貴
	指導主事		市川晃司
	指導主事		窪田香

国立市教育委員会

○【佐藤委員長】 皆様、こんにちは。きょうは久しぶりに薄日が差してまいりました。気温が30度を下回る日でも熱中症にかかることもあるとのことですので、十分お気をつけいただきたいと思えます。

これから平成23年第2回教育委員会臨時会を開催します。

きょうの会議録署名委員を米田委員にお願いします。よろしいでしょうか。

○【米田委員】 はい。



○議題（1） 議案第20号 平成24年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について

○【佐藤委員長】 それでは議案20号、平成24年度使用国立市立中学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

最初に事務局から説明をお願いいたします。渡辺学校指導課長、お願いします。

○【渡辺学校指導課長】 平成24年度使用国立市立中学校教科用図書の採択についてご説明いたします。

本年度の調査研究委員会、審議会の調査及び審議経過につきましては、7月の定例教育委員会においてご報告したとおりでございます。また国立中央図書館及び国立市立公民館において、5月20日から6月20日まで教科用図書展示会を実施いたしまして、市民等の皆様から109件のご意見をいただき、7月の定例教育委員会において資料としてご報告をさせていただいております。

本日は審議報告を受けての採択となります。ご審議のほどをよろしくをお願いいたします。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ただいま学校指導課長から説明をいただきました。平成24年度の中学校使用教科用図書についての審議に入りたいと思えます。

7月26日開催の定例教育委員会で、教科用図書審議会から審議結果の報告を受けました。各教育委員は審議結果やアンケートをもとに調査研究を重ね、国立市の公立中学校にふさわしい教科用図書についての考えを深めていただいたことと思えます。

それでは各教科ごとにご意見をいただきながら、平成24年度使用中学校教科用図書についての採択をしていきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○【佐藤委員長】 それでは最初に、国語からご意見を伺いたいと思えます。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 国語は東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書の本を読みました。みんなよくできていて、教育出版の『伝え合う言葉 中学国語』、それから三省堂は少し量が多いのですが、これもなかなかよくできている。それから学校図書の判が、このサイズは私は好きなのです。それから東京書籍と光村図書と5社の教科書を読みました。そして、ほかの委員の方と議論をしたのですが、議論の対象となったのは、今まで使っている学校図書の教科書。そして最終的に残って、我々が審議したのは東京書籍と光村図書のこの2つです。国語はすべてよくできているのですね、やはり基本ですから。話す、聞く、書く、読む、それから言葉という視点、いろいろと議論したのは東京書籍の「新しい国語」と、それから光村図書の「国語」です。

東京書籍は、出てくる人物が三好達治など、それから読むところではNHKアナウンサーの川上裕之さんが、例えば野球の放送を読むスピードと、それから天気予報を読むときのスピードが同じようでありながら、速く読む、ゆっくり読むという2つの例を具体的に挙げながら説明しているところがよかったです。それから堀口大学、中原中也、田村隆一という、私好みの筆者がたくさん出てきていなと思いました。松山善三さんや、それから芥川龍之介の「トロッコ」は、両方の教科書に共通しているのですね。それから新しいところでは辻仁成さんの作品など、さまざまあって充実していると思いました。

一言で感想を言うと、よく何でも入っていて物知り博士のうんちくというのですか、非常によく出てくる、八方気が向いている教科書だという感じがいたしました。

そして光村図書のほうは、工藤直子さんの詩に始まって、それから桑原茂夫さんの文章がとてもいいです。それから荒川洋治さん、メンバーがいいですね。「届ける言葉」、「おいしい読書」、コピーが糸井重里のコピーみたいで気になったのですけれど、「届ける」とか「おいしい」とか、割とコピーライターが使うようなのを使っています。鎌田實さんとや杉浦日向子さん、米倉斉加年さんの文章と絵と一緒に入っている、非常によかったです。茨木のり子さんが出ていたのもうれしいです。

それから、やはり芥川龍之介の「トロッコ」や鑑賞文はどこも載せるのですね。そして、いいと思ったのは、書くということ。課題は読む、聞く、鑑賞するということが出ているのですけれど、書くというのは難しい。これは実際にみんなそうで、実社会に生きて相当の教養がある人ででも、いざ文章を書くとなると四苦八苦して、一日じゅう、1週間うなってしまうということが現状で、難しいことなのですけれども、光村図書のは好きな作品を見つけて読むということが書いてあった。ここには非常に心が引かれました。自分が好きな作品であればそれを読んでいくうちに覚えて、文章をなぞって覚えていくことができる。

それから夏目漱石も、「坊っちゃん」が出ているということがいいと思いました。

東京書籍、光村図書ともに甲乙つけがたく、両方ともいいと思いました。一言で言うと、光村図書のほうが発想の広がりがあるなという感じがいたしました。

それと現場の先生方の意見ですけれども、必ず現場の先生の意見を聞いて、それを参考にしているのですが、現場の先生は光村図書がいいという意見が圧倒的でした。

報告書では光村図書がいいという意見が多かったです。その結果、光村図書がいいのではないかとすることに、私は考えました。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

米田委員。

○【米田委員】 今、嵐山委員から各出版社の教科書の特徴について詳しくお話しいただきました。私はその中で特にいいと思った光村図書と、現在、国立で使われております学校図書について少しお話しさせていただきます。

光村図書の場合には、最初に申し上げたいのは、読む、聞く、話す、書く、言葉、漢字、文法、そういうことに関して非常に系統的にわかりやすく分類して取り扱っているところだと思います。

その中で、文章の選択ということに関していいますと、文学作品以外にも各分野で活躍されている科学者や展示デザイナー、それから脳学者、こういった方々の文章がたくさん取り上げられている、なおかつこの教科書のための書きおろしというのがかなり多くて、生徒の発達段階に合わせての課題、

そういったものを非常に意識して、文章を取り上げていると思いました。

それと読むということだと思いますと、新聞の読み方ということを非常に丁寧に社説を具体的に取り上げてやっているというところが非常によかったと思います。

さらには古文の取り扱いですが、古文については解説文と、どういう形で組み合わせるかということがありますが、この古文の原文と解説文の説明が非常にわかりやすかったと思います。

それと光村図書は小学校のところでもそうでしたけれども、日本人の情緒、その発展ということを考えまして、1年生から3年生まで各季節ごとに、「季節のしおり」というページを設けておまして、そこに日本の伝統的な絵画でありますとか、さらには和歌、俳句、詩歌、こういったものを季節をあらわすページとして設けてあるといったところは文学作品を読む上での日本人の情感の発展ということを考える上で大変工夫があったと思います。

それと最後の資料の巻末のところに、漢字の練習ということを書き順も含めて非常に丁寧に漢字の練習のページがありました。さらに活字の大きさ、それからその形、書体としては光村図書独特の明朝体ということのようですけれども、それが非常にはっきりしていて読みやすいと思います。

それと読書案内ということも各章でやっていますし、それから図書館の活用ということも具体的に書いてあるということが大変よかったと思います。さらにノートのとり方も実例として挙げていて、非常に親切で、書くということに関しましては、読む、書くという中で大変難しいところですが、ノートの書き方に始まって、そして自己紹介を書いてみる、鑑賞文を書いてみるなど、割と具体的なテーマによってどう書いていくという指導が丁寧だと思います。その鑑賞文のテーマとしては絵画を取り扱って、ルノアールの絵を見てどう感じるかなど、さらには「最後の晚餐」を知ってどう書くかということもありまして、絵画、芸術的な方面に関する目配りというものも大変よかったと思います。

それと光村図書の小学校から伝統的に行っている平和教材ということですが、これも1年生の「大人になれなかった弟たちに」という文章でありますなど、3年生の「原爆の写真によせて」という詩を載せているところも大変好感が持てました。

そういうことで文学的な作品のみならず実用的な説明文などによって、読む力、書く力、そして話すということに関しても、スピーチとか話し合いなどプレゼンテーションのやり方というのを載せていて、そういうことでは大変まとまっている教科書だと思いました。

そしてもう1つ、現在、国立の中学校で使っております学校図書、小型判ですが、この特徴としては非常に文章量が多いというところがあります。ある意味あまりイラストなどそういうのを載せないで、非常に落ちついた、そういう教科書ということがあります。そしてその文章量、読み物が多いということがある意味利点でもありますし、先生たちがそれをどう精選して使うかということに関しては、先生たちの力量というものが大変必要な教科書であると考えられます。

そういうことで非常に好きな先生もいらっしゃるかもしれないし、非常に教えるにくいと、どの教材を取り扱うかどうかに関しては非常に悩ましいところがあるという考え方もあると思います。そういうことで、読み物が多い、そして落ちついた教科書である、そして読むということに非常に集中してつくられたという、非常に個性的な教科書ではあると思うのですが、中学校で実際に先生が生徒に使わせて、そして使いやすいということですので、やはり光村図書の教科書がすぐれているということで、私は光村図書の教科書を推薦いたします。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

中村委員。

○【中村委員】 これまで嵐山委員と米田委員のおっしゃったことに、あまり重ならないようにして幾つか感想を申し上げたいと思うのですが、私は光村図書がいいと思っています。バランスよく非常に多分野の能力も伸ばせるように工夫がされていると思います。平和教材では、先ほどおっしゃったように「大人になれなかった弟たちに」という文章があります。

平和教材という点でいうと、学校図書はやはり文章量というか、取り扱っている教材が多い分、3年生に「輝ける橋」、「黒い雨」、「パール・ハーバーの授業」というのを取り上げています。ほかの教科書に比べて割合としてどうかではなくて、実際の数として詩も随分取り上げているのではないかという印象を持ちました。ただし、小説や論説文の著者のプロフィールには写真が載っているのですけれども、それ以外で写真がない詩の作者などもあって、アンバランスも感じました。

東京書籍は、小説、物語はほどほどなのですが、論説文が特徴なのではないかと思いました。社会的なテーマをよく取り上げていて、エネルギー問題や環境に関しての文章も3年間通して出てきています。あとは読書案内ということで、先ほど話題になりましたが、三省堂は副読本をつけて、そこにブックガイドを収録しています。

もう1つ、私は教育出版の読書案内が充実していると思いました。読書に興味を誘発する仕掛けとして、いいと思いました。

去年、小学校の教科書の採択においても、教科書における目に見えない形のヒドゥン・カリキュラム、隠されたカリキュラムとしての男女のキャラクターの扱われ方ということを発言しましたので、今回もその観点から見たことを少し申し上げます。

印象としては、去年の小学校のときよりも、中学校の教科書はそういう点も随分と意識がされていると思いました。さまざまな登場人物、男女の中学生のキャラクターが出てくるのですが、その発言の内容というものに特に目立って差が感じられなかったということがあります。ただし、去年も申し上げた白いひげや白髪の年輩の男性、私は去年「おじいさんキャラクター」と言ったのですけれども、教育出版の「道しるべ」に登場する博士というのはやはりおじいさんキャラクターですし、学校図書の「漢字の成り立ちコーナー」の仙人もやはりおじいさんキャラクターで、少し残念だと思いました。

結論としては、私も光村図書が一番いいかと思っています。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

是松教育長。

○【是松教育長】 国語という教科は言語の正確な理解と活用能力を育成して、コミュニケーション力、あるいは表現力、思考力というのを養うという、学習の基本教科だと思います。したがって生徒の言語感覚をよりよく引き出すという教科書に視点を置いて私は見てみました。

結論から申し上げますと、光村図書出版を候補に挙げたいと思います。言葉と文字の持つおもしろさや不思議さが非常に伝わってきたということがございます。それから学習の見通しや目標、発展が系統立てて構成されていると思います。それからこれは米田委員さんもおっしゃっていましたが、さまざまなジャンルの読書案内が、生徒の読書活動に役立っていくのだろうというようなこともございまして、光村図書出版がよいと思っております。

その他の書籍については各委員さんが述べていただいたので、私のほうは候補本だけの評価にとどめさせていただきたいと思います。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

審議会からは、各教科、各教科書について、内容の選択、構成・分量、表記・表現、使用上の便宜などの観点から特徴的なところを報告いただいております。

私も意見を申し上げます。私も光村図書を推薦したいと思います。単元の構成やねらいとの関連に各社が工夫を凝らした分、やや複雑な印象を受ける教科書も見受けられる中で、光村図書は審議会の報告にもありましたが、1つの単元が文学的文章と説明的文章を中心に構成されており、3学年を通して系統性があり、学習に発展性を感じました。また先ほどお話があったように、話す・聞く、書く、読む、そして伝統的な言語文化の領域もバランスがとれていたと思います。読むことについても近現代の名作とともに、中学生が読んだらどんな感想を持つのだろうと楽しみになるような比較的新しい作品も扱っていて、説明的文章もさまざまな分野のものを取り上げていました。

また教材の前後に学習の目標が書かれてありましたが、初めのほうは作品名の右下に小さく記載されていて、読むことの妨げにならないような配慮を感じました。

また話す・聞く、書くことに関する言語活動については、学習の人数や場の設定を工夫したり、扱うテーマも発達段階を考慮した身近なものを中心に、そのジャンルも数も豊富でした。教材で学習したことを生かす場にもなっていました。また言語活動においても、学習の目標や見通しをわかりやすく記載し、視点を明確にした振り返りや生活や他教科に生かしていく工夫も見られました。生徒が主体的に進めていくこうした活動において、学習の中で今、自分はどこにいるのか、どこへ向かう必要があるのか、どのようにすれば目標にたどり着けるかをわかるようにすることはとても大切であると思いました。

それから古典の取り扱いについてですが、各学年ともに古典を音読し、言葉の調子や響きを味わい、楽しむことから始めていました。教材に関連する日本画などの資料も多く、古典の世界へと誘うコラムなどもあり、学習、理解を深める過程がとても丁寧だと思いました。

それから情報の扱いも新聞などを活用してとても充実していたと思います。新聞の1面の構成の特徴を理解する学習や社説を比較して論理の展開の仕方について考える学習、それをもとに意見を主張する文章を書く活動、また情報に関する教材を通してメディアの特徴を理解する学習もありました。資料として2社の新聞記事を並べて比較の視点を示しながら学習を進めるものもありました。

それから漢字の学習についても先ほどお話が出ましたが、問題も質・量ともに非常に豊富でした。同じ読みの漢字や熟語、同じ部分を持つ漢字、同じ意味の漢字など、また四字熟語を含む熟語やことわざ、慣用句、地名や都道府県名など、さまざまな角度から漢字の学習が進められていました。また小学校、中学校で学習する漢字に加えて、常用漢字表に追加された漢字一覧と、読みの練習問題もあって充実していたと思います。

また三省堂につきましては、本編と資料編の分冊が小学校もそうでしたが大きな特徴だと思います。資料編が大変充実していたと思いました。実際に授業で使う場合、使い勝手がどうなのかということを考えました。

皆さんからご意見を伺いました。国語については光村図書を採択することによってよろしいでしょうか。

(「はいと呼ぶ者あり」)

○【佐藤委員長】 それでは国語は光村図書を採択することといたします。

続いて書写についてご意見をお願いします。

米田委員。

○【米田委員】 ことしの中学校教科書採択においては、特に国語の教科書と書写の教科書を連動する必要はないということで、独自に書写の教科書の各社の教科書の特徴を見ながら最終的に1社に絞っていきました。もともと書写というのは、読み書きそろばんの書くというところに当たりまして、小学校では楷書を丁寧に書く、そして中学校の一番の目標は行書の書き方、それから行書と平仮名がまじった文章の書き方、そういったところを一番丁寧に扱っている、そういう会社として光村図書出版が私は、非常に簡潔ではありますが、いろいろな教科書会社、大体2冊の構成になっておりますけれども、光村図書は1冊で1年から3年までの間の学習の見通しというものを非常にうまくまとめてやっていたと思います。

特に行書の書き方ということですが、その行書の書き方に関しては非常に丁寧に扱ってありました。行書の丸みとか形の変化とか、それから連続、省略、それから筆順、そういったものが非常によくわかる書き方になっております。そしてその行書の書き方と行書を含んだ平仮名の書き方ということの関連性を非常にきちんと押さえていたと思います。

それとある意味漢字書写も1つの文化ということなので、3年生になると身の回りの文字ということを目立たせて、そして最後に各学年の書き初めの手本ということを見ると、非常に大きくてわかりやすかったと思います。

その光村図書の特長といたしまして、1年から3年までの流れをきちっと押さえて、その中で行書の書き方に非常に力を入れているというところが、大変評価できるころだと思います。行書のへん、つくり、それからかんむり、にょう、そういったもののなぞり書きというのを非常に丁寧にやれるようになっておりまして、なぞり書きをする場合の紙質ということも非常によく考えられていたと思います。

それにプラスして、さまざまな書に関する資料、手紙、それから原稿用紙の書き方、それからノートのとり方、そういったものも非常に実際的に活用できる、そういうところがあったと思います。

もう1冊、最初に見たところで、なかなかおもしろいと思ったのが、大日本図書の書写です。2冊に分かれておりますが、非常に書を文化として見ているというところがあって、その書に関連する文化的な情報というのもたくさん豊かであったと思います。それと行書に関しては、行書と仮名の調和ということ非常に力を入れてやっていたと思います。書を文化として見るという立場からの編集になっていたと思いますし、なかなかおもしろい教科書だと思いました。

ただし、調査委員会の先生たちが大日本図書の、特に行書の字体はかなり特殊であるというお話があって、手本として使うには少し問題があるというお話でした。そういうことでは書写を実際の実用的なものとして見るか、さらには書を文化として見るかという点はさまざまあると思いますけれども、現場の先生がお手本として使うには少し丸字過ぎてやはり特徴といいますか、くせがあり過ぎるということで、残念ながら大日本図書のこの書写の教科書はそういう一番基本的なところに問題があるということで、一番最初に申しあげました光村図書の1冊にまとまっている書写の教科書を実際的にもあるし、文化的な配慮もあるということで推薦いたします。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。光村図書を推薦いただきました。ほかにいかかでしょうか。

是松教育長。

○【是松教育長】 今、米田委員がおっしゃられたように構成としては学校図書と光村図書出版が3

年分を1冊という形の構成にしておりまして、その他の出版社は1年生と、それから2・3年生を別冊とした2冊立てにしているという特徴がございます。

内容的に申し上げますと、東京書籍は構成も仕立てもしっかりしていて、教科書として生徒になじみやすいのだらうと思いました。それから教育出版と三省堂は、毛筆指導にかなり力を入れた教科書となっているという感想を持ちました。しかしいづれにしても書写ということで、書くという、日常的に書くということを子どもたちに教えていくということの視点から見ますと、光村図書が書写の活用場面をさまざまに掲載してございます。例えば送る会の掲示板の書き方だとか、プログラムの書き方、カード作成など活用場面が多い。また絵手紙や手紙、はがき、封筒の書き方など、そういった活用事例も豊富だということを考えますと、私は光村図書の書写はいいのではないかと思います。

以上です。

○【佐藤委員長】 それぞれの教科書のよさに触れていただいて、最終的に光村図書を推薦いただきました。ほかに。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 光村図書がいいですね。使いやすくていいのですが、1つだけ、ほかのにも共通するので光村図書に注文をつけますと、1年生の文章を白抜きにしているのですよね。白抜きというのは、ポスターやチラシなどデザインの感覚です。白抜きのバックがオレンジやミントグリーンであるなど、そういうところに白く文字を抜くというのはデザイン優先であって、使いやすくない。私は基本的に理科も社会でも、何か写真の上に、写真を下にひいて説明がしてあるものはすべてよくないと思います。それはほかの出版社も全部共通するところで、教科書は白抜きというのを、即やめてもらいたい。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。白抜きの文字についてお話をいただいて、光村図書を推薦いただきました。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 私も一言だけつけ加えます。先ほど嵐山委員がおっしゃった白抜きというのは、学校図書の表紙からですね。学校図書は各章の扉に非常に美しい写真で、例えば「旅情」という文字を入れたりして工夫はされているのですけれど、やはりデザインとして、すてきだなと思う反面、問題もあると思います。

私も、先生方の意見では3年間1冊になっているほうが使いやすいということでしたので、学校図書と光村図書を比較的丁寧に見たのですけれども、全体としては光村図書のほうがはっきりとしているといたしますか、手本としても使いやすい気がしました。

ただし、先ほどから申し上げているキャラクターについては、非常におもしろかったのは、光村図書の表紙に白髪のおじいさんが相変わらずじゃじゃーんと登場しているのです。ひげも生えているおじいさんですが、1カ所しか登場しません。学校図書が実は同じように筆のキャラクターなのですが、赤の服を着た女の子キャラクターが鉛筆で、筆の頭の青の服を着たのが男性キャラクターですけれど、筆なのに若くしてあるというのは新しい挑戦かと思いました。

以上です。

○【嵐山委員】 女性も出てきますね。

○【中村委員】 そうなのです、本当にいいことです。ですけれど、それだけでは決められないので、私はつけ加える意見として申し上げました。

○【佐藤委員長】 総合的に光村図書を推薦したいというお話でした。

私も書写は光村図書がいいと思いました。書写につきましては、自分の文字をよりよくしていく学習、それからIT化が進む中で文字というもの、また、その移り変わりに関心を持ったり、身の回りの文字の多様性に気づいたりしながら、学習したことを実際の生活に生かしていくことが大切であると思います。各委員がおっしゃったことに加えて、光村図書の書写は学習のポイントとなることを考えたり、話し合ったりして学び、実際に書いて確かめ、次に学習したことを生かしてみる、そして必ず振り返りがあるという流れがしっかりしていました。

それから楷書と行書の違いを比べることは各社共通して扱っていましたが、その中で光村図書は見開き2ページを使って、それぞれのページに「緑」という1文字を大きくあらし、違いをしっかりと考えさせていました。また、その文字の下のほうに吹き出しを使って、比べる視点を4つ小さく掲載しているところもいいと思いました。

皆さん、ご意見が同じようですので、書写については光村図書を採択することによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは書写は光村図書を採択することといたします。

続いて社会に移ります。初めに地理的分野について皆さんのご意見をお願いします。

米田委員。

○【米田委員】 社会科の地理に関しまして、東京書籍はA B判という、ほかの教科書よりも非常に大きい判を取り扱っております。あまり大き過ぎて持ち運びに不便であるとか、机の上になんかいっぱいになって、ほかに資料集なんかがあると大変であるなど、そういうプラス面マイナス面はあったわけですが、現場の先生としては地図が大きくて見やすい、グラフが見やすいなど、なおかつこれがあればほかの副読本は必要ないというぐらい詳しくいろいろな情報が入っているということで、プラスの評価として推薦されております。

私も東京書籍のA B判に関しましては、先生がおっしゃるような形で、大きいことがプラスの評価になっていると思いました。

地理の構成としましては、世界地理編と、それから日本地理ということの2つの項目があるわけですが、東京書籍の場合には最初に世界地理編として世界の姿ということで、全体の世界の地理的な情報を入れ、そして2章でも自然地理的な情報をここで入れ、そして3章として具体的にアジア、ヨーロッパという形で世界の諸地域の具体的な人文地理的な情報を書いておりますので、先生にとっては大変使いやすいと思います。

それとこの教科書の構成のあり方として、見開き1ページでちょうど1つの話題、テーマ、課題が書かれているという特徴があります。最初に見開きのところに、どういうところを勉強するかということをもとめて書いてありまして、そして最後のところに学習した結果、確認ということはどういうことを自分たちがここで確認できたかというようなことを、必ず見開き1ページずつそういう形をとっているのです。発問から、そして資料、グラフに対する子どもたちの考え方を深めさせ、そして最後にどういったことを確認させるかということまで、非常に詳しく書かれていると思います。

さらに「深めよう」というページがありまして、そこで現在のいろいろな問題を発展的に扱って、自由研究にもなるというようところが、非常に課題学習をやる際の利点かと思います。

それと各編の最後に地域の調査ということを取り上げておりまして、世界の場合には韓国、それか

ら日本の場合の身近な地域の調査としては静岡県というテーマを決めまして、そして詳しくどういうことを調べて、どうまとめるか、さらにはそれをどう発表するかということも含めて、大変まとまった、課題学習の事例調査になっていると思います。

さらに巻末の用語解説、さらには索引、これも大変詳しくなっていると思います。

そういうことで非常にバランスよく世界地理の分野、それから日本地理の分野、そして子どもたちの発想ということを引き出すような編集の仕方ということを含めて、この教科書は大変子どもたちが興味を持って読める教科書になっていると思います。そういうことで地理は東京書籍を推薦いたします。

それと個性的な教科書といたしまして、地理の場合には教育出版も非常に特徴があります。それは地域ごとの記述が非常にまとまって長くなっているということで、世界の諸地域、さらには日本の地域の構成ということに関しての記述が非常に詳しくなっていて、そこで人文地理も、それから自然地理もまとめて教えるという構成になっているので、そういう教え方がいいと思われる先生方は教育出版は使いやすいのではと思いました。

最初に申し上げたように、全体の印象からいいますと東京書籍の地理の教科書は、大変課題学習にも適し、子どもの発想、そういったものを大事にし、そしてまとめるところのまとめ方もきちっと押さえてあるということで、国立市として大変ふさわしい教科書だと思いました。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。

中村委員。

○【中村委員】 私は地理について、東京書籍がやはりバランスよく手がたいづくりではないかと思えます。ただし、さまざまな課題を取り上げていて、場合によっては詰め込み過ぎなどところもあり、詰め込み過ぎて駆け足の印象を受けたところもあります。巻末の統計資料や用語の解説は非常に充実していると感じます。それから図版に番号が振ってあるというのも、地理の教科書として非常にいい点だと思いました。

それから注目したのは、帝国書院の写真が非常に構図もよく、いい感じで生き生きとしているという点です。推測ですけれども、あったものを資料として使うだけではなくて、もしかしたら現地で取材もなされたのかと思えるような魅力のある写真が多いのは、帝国書院について私が注目したところです。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

嵐山委員、お願いいたします。

○【嵐山委員】 地理は東京書籍がよかったです。東京書籍は、例えば南アメリカなどではブラジルのアマゾンのところの囲みのお話がおもしろい。地理というのは結構退屈してしまうのですが、大人になると行きたいところに行けるようになるのですけれども、子どもたちはアマゾンなどへはなかなか行けないですね。ピラニアも食べられますなどの小さいコラムが楽しいですね。移住した日本人や、それからサッカーのことも出てきます。そして、タヒチのボラボラ島が出てきたりで、「あ、行ってみたいな」と思ったりできる楽しさがあり、韓国ではプルコギが出てきて、「おいしそうだな」と思ったり、バラエティがあって、工夫があるという気がいたします。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 地理は地理的見方や考え方、地理的リテラシーともいえるのですけれども、それを養うということと、何よりも日本の国土と世界の地域的特色を認識させるというか、先ほどの嵐山委員のお言葉をおかりすれば、まだ子どもたちは小さいのでそういうものに深い関心を持たせるということから、なるべく教科書が見やすくわかりやすいというものがいいのでしょうかということ、私も東京書籍がいいと思います。A B判ということで大きさから見やすいわけですが、大きさだけではなくて、中の写真や文字のレイアウトも非常に読みやすく構成されているということ、それから副教材的な資料も豊富にあるということ、そしてこれは現場のほうからも上がっておりまして、意見としてありましたが、見方や考え方を養う設問が多いということがございましたので、私も東京書籍を推薦したいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私は帝国書院か東京書籍がよいと思いました。帝国書院は、内容がしっかりまとまっていることに加えて、「技能をみがく」のコーナーが充実していたと思います。また何より世界の諸地域、日本の諸地域ともに各地域を学習した後で、「よりよい社会に向けて」と、「日本の底力」、「地域の底力」という囲みがあり、日本と世界との結びつきを身の回りのものや身近な視点でとらえているところがとてもよいと思いました。

最終的には東京書籍の採択を希望したいと思います。大きな理由の1つは、A B判であって、圧倒的に見やすいということが1つです。もう1つの大きな特徴は「確認」欄です。これについては審議会の報告でも触れられていましたが、学習したことを説明したり、理由を考えたり、予想をしたりする学習活動が提示してありました。説明を促す設問でも、使用する語句を指定したり、字数を制限したり、共通点や違いを説明したり、またPRのためのキャッチフレーズをつけたりと、アプローチの仕方が非常に多彩でした。また1つの単元に1問の提示ですので、決して多過ぎず、しかも学習したことを自分の言葉でまとめるという言語活動が習慣として継続されていくことは、生徒たちにとって学習したことを振り返ることに加えて、考え、判断する力、また豊かな言語力を育てる大きな力になると思いました。

また東京書籍は、世界の諸地域、日本の諸地域ともに資料、それから構成がほぼ統一されていて、比較したり考えたりしやすく、さまざまな観点から地域全体を見て特徴をつかみやすいと思いました。導入もテーマなどに関連する写真を大きく掲載して、各地方のイメージを膨らませやすいように工夫されていました。それからそれぞれの地域で生活している人の話も随所で取り上げていました。また資料活用の技能を習得するための地理スキルアップも、基礎的技能をしっかり押さえながら、確実にレベルアップしていく工夫が見られました。

また、先ほど嵐山委員からお話がありましたが、コラムが大変におもしろく、時差を調べよう、国境を越えた環境問題、地域において異なる世界的なチェーン店など、基本的な事項から現代社会の諸問題まで興味や関心を高め、理解を深めるための工夫がされていたと思います。

委員の皆様から東京書籍を推薦していただきました。社会、地理的分野については東京書籍を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは社会、地理的分野は東京書籍を採択することといたします。

続いて社会、歴史的分野に移ります。皆様のご意見を伺います。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 中学校における歴史教育の一番の目標というものは、世界史と日本史との関連、それを含めて通史をしっかりと理解することだと思います。そしてこれは地理のところでも話題にしたA B判がどういうプラスの要素があるのかという話ですが、A B判、東京書籍の場合にかなり絵画資料、それから文字資料、さらにはグラフ、そういったものが非常に豊かに入っておりまして、そういうさまざまな種類の資料を通じて歴史を考えるという前提で編集されているというところはA B判の強みであろうと思います。

この東京書籍の場合には、第1章で、まず歴史のとらえ方として過去から未来への行き方を探るということを明記した上で、歴史の常識的な時代や年代のあらわし方、西暦、世紀、年号、さらには時代区分、それから十干十二支、それから方位、時刻という、そういう歴史の一番基本的なところをまとめて「スキルアップ」というコーナーを設けて、そこでまとめているということがあります。さらに歴史の調べ学習をするにはということで、テーマをどういうふうに決めるか、それから調べるポイントは何か、それから考察はどうするか、まとめをし、発表をし、なおかつその発表がよかったかどうか見直すというような形の調べ学習の姿勢というものを最初に強く打ち出していたということが特徴だと思います。

第2章以下は古代から近現代までの記述に入るわけですが、その各記述の前に世界の動きはどうかということを中心に必ず入れていると。そしてその時代の日本はどうだったかという形で、世界史とのつながりが非常に自然にできる、そういう構成になっていたと思います。

さらには一番最初に写真や絵によって、その古代なら古代の流れが概観できる、そういうページを設けているというところが通史の意識ということを高める上で大変いいと思いました。

各記述の内容ですが、やはり見開きで課題1つということがあります。そして最初にきょうはどういうテーマについてやるということを書いた上で、本文や資料によって学習を深め、そして最後に確認の課題ということを非常に具体的に、1時間の分量でできる内容になっていると思います。

例えば最初にテーマとして、日本列島に住み始めた人々はどのような生活をしていたのでしょうかというのが最初のテーマにありまして、確認のところでは縄文時代の人々の生活の特徴を次の3つの内容について説明しましょうということで、道具、食べ物、住居というようなことを3つ挙げまして、これを生徒にまとめさせる。そのことによって歴史の表現力、思考力、判断力、さらには言語活動を高める工夫が毎時間毎時間できる、そういう掲載になっているところが、先生方が教える際には大変参考になると思いました。

さらにはコラムで「歴史にアクセス」というコラムがありまして、そのコラムには例えばどういう話題が載っているかといいますと、奈良時代の人々の負担ということで、租庸調とか、運脚とか、雑徭とかいう形で奈良時代の人々の、一般の人にとっての生活はどういうことだったかということをもとめていますし、さらには10世紀に地頭を訴えた農民のことなど、またアテルイを中心とする蝦夷の抵抗のことですとか、さらには中世ですと河原者たちの技術というような形で、一般的に弱い立場の人々、それから差別された人々のことを「歴史にアクセス」という形で、中心でまとめているところ、これは歴史が単に英雄だけでつくられるのではなく、一般の人々のさまざまな努力によって現在があるのだということを考えさせる上では大変、この「歴史にアクセス」というコラムは重要だと思います。

それからもう1つ、歴史スキルアップということで、いわゆる絵巻物の見方とか、それから博物館で調べようという調べ学習とか、それから年表にまとめようという、非常に作業を含めて調べ学習を

含めての歴史の勉強ということも非常に手厚いと思いました。

さらには地域の歴史を調べるということで、「私たち歴史探検隊」というページがありまして、古代の場合には福岡、志賀島で金印が発見された場所や、板付の遺跡があるところですが、さらには中世の場合には自由都市の堺のこと、江戸時代になると絞りで有名な有松ですね。それで明治の初期は横浜、そして広島という形で歴史探検隊がどういうところで具体的に調べるかということのを非常に詳しく地域史への視点ということが、大変具体的に記述されているところが非常にいいと思いました。

そういうことで東京書籍の場合には、子どもたちの興味、関心をどう引き出すかということと、さらには課題学習、そういったものを具体的にどのようにやるかということ、さらには世界史との結びつきの形が非常にしっかりできていること、そういったことが利点として東京書籍を推薦したいと思います。

歴史の教科書7社出しましたけれども、それ以外にも各社さまざまな工夫をして、特徴ある、特色ある編集をしておりました。

特にその中で帝国書院の編集ですが、これは古代、中世、近世、近代、現代という形で通史を分けた上で、1人の人、学者が分担して編集責任みたいなことを実際に行っていて、その学者によってその時代のどこがおもしろいかということのを非常に詳しく編集してあるというところは、帝国書院の大変すぐれたところだと思います。さらには歴史学の研究の最先端の情報もたくさん入っているということで、かなり高度な教科書ということになっております。

ただし、編集の際の資料、紙、印刷、そういったことに関して少し、例えば印刷だと赤が強いというようなことがあります。そういう意味では全体に、子どもにとっては少し欠点があるかと思いました。

それと清水書院も、調べ学習、さらには中学生の思考に沿った課題を投げかけているというところでは、大変編集者の方針というのがはっきり出ている教科書だと思います。書いた資料によって学ばせるということを徹底させていて、資料の取り扱いが非常に多かったと思います。さらには新しい成果、研究成果を非常に早く導入しているということなど、生活史に詳しいといったところがありました。さらに差別問題などということにも意識を持って編集されているという印象があります。

そして清水書院のある意味少し問題点というのは、本文の文章の書き方が「である調」ということで、まだ中学生には少し早いのではというところがありました。ただし、非常に好感の持てる教科書ではありました。

以上、幾つかの教科書をお話し申し上げましたが、全体としての採用ということであると、東京書籍ということで私は決めさせていただきました。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかの委員の方、ご意見いかがでしょうか。

中村委員。

○【中村委員】 私も東京書籍がいいと思います。米田委員が既にスキルアップのさまざまな具体的なこともおっしゃってくださいました。そして歴史の「調べ学習をするには」というところで、これは各社共通なのですが、非常にわかりやすく、テーマを決めるポイント、調べるポイント、考察するポイント、まとめるポイント、発表するポイント、見直すポイントと提示をしていました。

具体的には幾つかあるのですが、印象的だったのは、歴史の初期のころから、例えば琉球王国の成立やアイヌ民族との交易に関する扱い、そしてまたアイヌ民族の歴史を扱うところがあり、近代にな

ってからは沖縄県の設置というように、系統的に琉球王国やアイヌ民族の土地であったことなど、そのことをかなり意識して取り入れていると思いました。

それから、それにつながる形でアイヌ民族初の国会議員になった方の写真を載せています。新しいところでは、核兵器廃絶を目指す決意を表明しているアメリカのオバマ大統領の写真なども、私から見ると非常に感度がいいといいますか、そういう印象を受けました。

年表も日本、朝鮮、中国、西洋、そして世界の主な出来事と整理してあって、非常に見やすいのではないかと思います。

もう一方で、私はジェンターの観点から育鵬社の「なでしこ日本史」というのを特に書いてあるという点で注目して見ましたが、これは女性史やマイノリティの歴史を書くときにいつも問題になることです。このように女性だけを別に取り出してしまうことは、つまり分離、隔離といいますか、女性史の隔離という問題があると思います。しかも、このように「なでしこ日本史」という形で抽出してしまったがためにという点もあると思うのですが、本文における日常的な女性の、人類の半分を占める女性の活動とか活躍についての記述が非常に薄くなっています。ですから例えば男女の同権を目指すとか女性参政権の獲得など、そういうところの叙述が非常に薄くなってしまって、「なでしこ日本史」のほうに吸収されてしまうというところがあります。しかも、その「なでしこ日本史」で書かれている人たちは有名人ではあるけれども、そういう意味では歴史に名を何らかの形で残している人たちが数人ずつ取り上げられているだけで、それを日本の女性の歴史として描くこの隔離的女性史の書き方は、やはり問題があるのではないかと思います。

それから先ほど、東京書籍の年表がとてもいいのではないかと申し上げました。新聞等でもこの年表を、参考にすること以上の形で、同じようなものを使っているという批判をされている出版社があります。現行でもそうですし、今度の採択に向けても同じことというのは非常に残念に思います。私は大学で教員をしておりますけれども、もし、コピーといいますが、ある資料をそのままコピーして自分のものとして出したら、それはもう授業の成績でいったらFです。学生が写したけれども正確だと、書いてあることは間違っていない、だからいいでしょうと言ったら、そういうのは通りません。という意味では今回そういうことを文科省が認めていること自体、私は非常に問題だと思っています。インターネットやさまざまな資料を調べるのはいいけれども、写したり、そっくりはいけないのだということを引きちんと教師は生徒たちに教えなければならないですし、社会全体としては、いい資料が入手しやすくなったということで、むしろそれをどうやって自分のものにするかということのをこれからはぜひしっかりと教えていかないといけないと思っています。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 地理と一緒に、東京書籍がいいと思うのですが、気になるのは、例えば水平社のところで、相も変わらず「破戒」の藤村を出していることです。藤村は、「破戒」が代表作ですが、精神的な思想家として著述に専念している人ではなかった。もっと別の資料もたくさんあるはずですので、相も変わらず藤村というのは不満を持ちました。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 歴史の場合は日本の国の歴史の流れ、それから各時代の世界とのかかわり、それ

から各時代の政治、経済、社会の特色、そしてその時代にはぐくまれた文化を認識、理解させるという教科でございます。

歴史、公民、数学は出版社も多くて、検定教科書が7社から出ているということで、それぞれ工夫を凝らしたり、また新たな歴史の視点というものを持ち込んで教科書がつけられているということでございます。

おのおの細かい教科書について逐一評価はできませんが、私は推薦として教科書の総合的なつくり、総合性の面から東京書籍がいいと思いました。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も感想を申し上げますと、歴史の教科書では各社共通して課題を持って単元の学習に臨み、小学校での学習を踏まえて歴史を大きな流れの中でとらえていくという工夫が見られました。

歴史的分野では、日本の歴史の大きな流れや各時代の特色を世界の歴史を背景に理解し、表現する。日本の文化と伝統の特色を広い視野で考える。また国際関係や文化交流については日本と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを理解するなど、それらの目標を踏まえた上で、さらに近現代の学習を重視した教科書ということで、東京書籍と帝国書院に絞って読み直しました。最終的に東京書籍の採択を希望したいと思います。

大きな理由は、地理的分野と同じ、まずA B判であること。それから「確認」欄の豊富な学習活動、言語活動も理由の1つです。また東京書籍は第1章として歴史のとらえ方を扱っていました。その中で人物や文化財を中心に学習を進めてきた小学校での歴史の学習を踏まえて、歴史の流れを確認していました。

また米田委員のお話にもありましたが、「歴史スキルアップ」で時代や年代のあらし方を学び、さらに確認問題もあり、次に歴史の調べ学習の進め方についてもわかりやすく提示してありました。中学校での歴史の学習の入り口としてとても丁寧な印象を受けました。

それから審議会の報告でも触れられていましたが、章の初めにある年表は人物や文化財のイラストがついていて、内容がほとんど小学校で学習した子どもたちになじみのあるものでした。また章末の年表は新たに中学校で学習した内容が加わり、年表の空欄を埋めながら学習を振り返り、完成させる形をとっていました。また、この2つの年表は学習を終えた歴史の年表が左ページ、次に学習する時代の年表が右ページにあり、歴史の流れの中でとらえていく工夫があると思いました。

また地図やグラフ、写真、また文献など資料も豊富で、取り上げる例も効果的で説明もわかりやすいと思いました。また文化遺産を取り上げている箇所も多く、国際交流や文化交流の扱いも比較的多かったと思います。

また資料活用能力を高めていく「歴史スキルアップ」も充実していました。

さらに東京書籍は歴史的な事象をさまざま立場、また、さまざまな考えからとらえていこうとする工夫が見られ、歴史を1つの要素だけでなく、いろいろな視点から見て考えるということを大切にしている教科書という印象を受けました。

また終章の現代の日本と世界では、「よりよい未来に向けて」という单元の中で、日本社会の課題として人権の尊重、少子高齢化社会、地方分権などを挙げ、公民の学習へと自然につなげている点もいいと思いました。

さまざまご感想もいただきましたが。

中村委員、どうぞ。

○【中村委員】 またキャラクターのことですが、歴史も東京書籍でいいのですけれど、お茶の水博士が出てくるのが東京書籍です。それから先ほど申し上げた育鵬社もお茶の水博士風の人が出てきます。そのことを指摘しておきます。

先ほどから話題になっているＡＢ判であるということなのですが、ある教科書についてはＡＢ判であることがマイナスであったりすることもあると思うのですが、歴史については資料や写真が本当に豊富で、それを参照しながら授業で使うことができるという点ではいいことであると思います。そうしますと、今まで使っていた資料集を使用しないでいいのかどうか。中途半端になるかもしれませんが、私はこの東京書籍のＡＢ判の資料も豊富な教科書を使いつつ、基本的な資料がこの教科書の中に既にほぼおさめられていますので、先生方が工夫して、本当に生の資料というか、例えば教科書にはその一部しか載っていない資料の全体であるなど、その点についても今はいろいろと資料がありますので、生の資料なり全文というものを資料としてじっくりと読み解くような機会もぜひ設けていただけたらと思っています。あまり教科書が便利過ぎてしまうと、また残念な点もあります。

以上です。

○【佐藤委員長】 ＡＢ判につきましては、先ほど米田委員からも詳しいお話がありましたけれども、審議会の中でもさまざま審議があり、最終的にはメリットとしてとらえるということで進めたいと思います。

教科書、また副教材等、さまざま感想もいただきました。教育長からもお話がありましたように、総合的に判断をするということになると思います。各委員から東京書籍を推薦していただきました。社会、歴史的分野については東京書籍を採択することによってよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは社会、歴史的分野は東京書籍を採択することといたします。

続いて社会、公民的分野についてご意見をお願いします。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 それでは公民的分野についてのお話をさせていただきます。公民的分野におきましては、現在、清水書院を国立では採用しております。清水書院の編集方針としては、人権ということに非常に力を入れて子どもたちに理解するという編集をしております。憲法から始まりまして、今まで言われていた基本的人権、国民主権などということにとどまらずに、新しい権利として環境問題、それから基地問題、政府の役割と福祉といったことに関して、非常に人権ということに基づいて個人と社会とのかかわり、さらには本文の書き方も子どもの視点で書いていることで大変特徴がある教科書だと思います。

そして国立に関係することとして、環境権の中で景観保存という立場から、マンション問題というのを取り上げ、そして実際に自分の生活している分野の中で、そういう問題も考える必要があるということがあって、国立の中学校で使うということでは、非常に身近な教科書であると思っております。

ただし、全体に教科書の紙が薄く、カラーがあまりよくないという欠点もあります。ただし、しっかり読ませて、新しい人権ということに関しての視点を、非常にそこに集中して書いてあるということと、脚注の問いかけというものも、子どもの視点に立って思考力を高める工夫もなされているということで、大変特徴があると思います。

しかし最終的には東京書籍の公民の教科書を推薦させていただきます。理由としては、一番最初に公民とはどういう人間を指すのかという問いかけがありまして、現代社会に存在する問題を他人事で

はなく、自分の問題として受けとめて、そして解決のためにどうしたらいいかを考える、そういう人間になることだということがあります。そしてそれが一番最終章のところ、こういったこと、学んだことを生かして、探究の方法として自分のテーマを見つけて、資料を集めて、そして考察をするというような具体的な例が挙げられています。そういうことからいうと一番最初の問いかけ、さらには最終章の探究の方法ということで、子どもたちが自分の力で生きる、そういったことの形が非常にしっかりあらわされていると思います。

1章以下、政治、経済、社会に関する行き届いた記述というものがあります。そしてその一般的な記述以外に「深めよう」という欄がありまして、いわば発展的な内容として共生社会とはどういうものか、防犯カメラの問題点、それから疑似裁判をしてみよう、パレスチナ問題、さらには経済としては為替と貿易の役割と、少し難しい発展的なコラムが見開きによって記述されていて、この辺はさらに考えを深める際には役に立つと思います。

それとやはりコラムですが、「公民にアクセス」ということが各章たくさんありまして、新しい問題として、例えば子育て支援の問題、沖縄と基地の問題、ハンセン氏病と人権の問題、それから外国人参政権、そして幼保一元化ということで保育園の問題というものが、一応現代的な課題がアクセスという形にまとめられているところは、子どもたちの社会に対する目を養う上では非常に大事であろうと思いました。

そして全体の構成としては、やはり歴史と同じように見開きで1テーマという形でテーマを設定し、そして最後に確認するという形で、そういう発問、さらには資料による先生の説明、子どもたちの意見、そして確認というのが毎時間できるようになっているというところが大変使いやすい教科書だと思います。

さまざまほかの分野に関しても過不足なく、憲法の問題、そこにおける国民主権、平和主義、基本的人権ということもきちんと押さえてありますし、それから平等権、自由権、社会権、人権保障、それから環境権ということもきちんと押さえてあると思います。

そういうことで公民は政治、経済、社会の分野を非常にしっかり押さえて、そして公民とは何かという問いかけから、最終的には自分でそういう探究、方法をしてレポートを作成し、そして最後に、探究を社会参画につなげる姿勢というものをまとめに使っているというところは、大変公民の教科書としてすぐれたところだと思います。さらに巻末の参考法令集、それから用語解説、索引も非常に充実していると思いました。そういう理由で東京書籍を最終的には推薦させていただきます。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。東京書籍を推薦したいというお話をいただきました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 公民の勉強はとても重要だと思っています。何よりも、民主主義を担う市民をどう育成するかということにおいて集約的にあらわれる科目で、もちろん授業の中だけではそういうことはできないかもしれないけれども、自分の頭で考えて自分なりの結論を持つことができるということが、民主的社会の市民としてはどうしても必要なことだと思います。さまざまな資料に基づいて自分で考えること、そして同じクラスの仲間たちとも考え合いながら、そのときなりの自分の考えというものにたどり着く力をぜひ授業を通して形成してほしいと思っています。それが本当の民主主義、民主的社会の土台、基礎的な力となると思うからです。それが本当に知りたいという、知らなければなら

らないという必然性を持って組織されるのが一番いいと思っています。

私はそういう観点から教科書を読み比べたときに、今まで使っていた教科書だということもあり、清水書院がとてもいいと思いました。清水書院の場合には、資料の見せ方がわかりやすく、構成がいいと思います。東京書籍もその点では非常にいいと思うのですが、何よりも読み物として、著者の中学生への思い、民主社会を担う人として人権の主体となっていく、社会を支えていくことへの熱い思いといいますか、1回の授業で「はい、終わり」ではない、一貫した人権への思いが本文の叙述から一番強く感じられるものが清水書院でした。1時間の授業で「はい、わかりました」にとどまらない熱い思いを、私は先生方が本当に伝えてほしいと思うのですが、教科書を選ぶに当たってはほかの委員の意見も聞いて考えたいと思っています。

1つ私は、「子どもの権利条約」の扱いがどうなっているかに注目しました。東京書籍では、子どもの人権という節を小見出しを立てて書いてあるのですが、「子どもにも人権が保障されます」という書き方は、私にとっては少し残念です。子どもにも人権がある、大人と同じような人権があるだけではなく、子どもには子どもであるゆえの固有の権利、つまり発達する権利、それから守られる権利があり、これは子どもにも人権があるのだというのとは違う新しい権利として子どもの権利条約があるわけですので、ここのところについては、読んで少し残念に感じたところです。

ただし東京書籍では、子どもの権利条約の生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利をイラストつきで非常にわかりやすく目立つように取り上げていました。

教育出版はその4つの権利をやはり図解して出してあります。差別の禁止とか、子どもによる意見表明権を保障したというところで、そこに注目をさせています。

清水書院は、本文での扱いはそれほど大きくないのですが、資料として子どもが訳した「子どもの権利条約」というものを1ページにわたって出しています。訳語にもかかわるのですが、教科書会社によっては「児童の権利に関する条約」という政府訳をそのまま使っているところがあります。帝国書院と、それから育鵬社と自由社です。これは政府がそのように訳したので、それを採用するのも理由があると思いますが、日本の教育界においては、幼稚園と保育園は園児、小学生が児童、中学生は生徒、高校生も生徒というように、子どもを学校教育法では分けています。そうすると児童の権利条約というと何となく小学生までというイメージが中学生にも多いです。高校生にもそのように思っている人がいます。大学生になってから改めて子どもの権利条約のことを話すと、「何だ、去年まで自分もそれだったのではないかと、でも、「自分が中学生や小学生で学んだときにはそういうことはあまり考えていなかった」ということで、今、まさに子どもの権利条約で保護されて尊重されているところに自分たちがいるのだということ、知識としてこういうものがありますではないことを印象深く書いているという点では、私はやはり清水書院がよかったと思います。

前後しますが、東京書籍の少し残念な点は、いつも巻末資料は充実しているのですが、その資料のことが索引に載っていないのですね。資料集の何ページに子どもの権利条約がありますということが載っていない、東京書籍の索引には本文部分しか索引がないというところが、権利条約の資料として全部の教科書のどこにどう扱われているかを探すときに不便でした。

自由社と育鵬社は、育鵬社は本文で扱っていますが、自由社は扱ってなくて、資料集では条文をたくさん、むしろ今まで言った各出版社よりも出しています。清水書院はたくさん出しているのですが、ほかの東京書籍、教育出版と日本文教出版と比べると多いです。ただし育鵬社の出し方は、国連で児童の権利条約を採択したけれども、それは発展途上国の非常に危機的な状況にある子どもたちの

ためにつくったのであるとか、先進国でも家庭が崩壊する中で虐待を受けたりという、非常に大変な状況の子どもたちを救うためのものであるということが強調されています。子どもの権利条約が1989年に国連で採択されつつ、日本政府が1994年までなかなか批准をしなかった背景の1つに、日本の子どもたちにとって現在の課題として重要だという認識がなかなか政府に受け入れられなかったということがあります。やはり発展途上国や特別の子どもたちを救うためのもので、日本の子どもたちはほとんどもうクリアしているという受けとめ方があったということにもつながることだと思います。

もちろん資料にどれくらい出ているかは、教科書どおりにその位置づけで先生方が話すのではないと思いますが、東京書籍を採用するとすれば、そのところは先生たちがぜひ補ってほしいと思います。

清水書院に少し注文するとすれば、マンション問題で問題になった国立のマンションの写真が出ていますが、そこに「建設業者との間で裁判になった」と書いてあります。建設業者というと何かそれを建てた工務店のようにも思われるのですが、そこにマンションを建てた業者というのを建設業者とっていいのかどうか、ディベロッパーといいますか、このところは正しく書いたほうがいいのではないのでしょうか。ただし、あの裁判は、最高裁で環境権の中でも景観権というものがきちんと認められた最初の歴史的な裁判でもあるので、そのところを書いている清水書院、清水書院だけではなくてもう1社書いているところがあるのですが、地域のことを取り上げる際には、現場の先生たちもそのところはぜひ忘れないで取り上げてほしいと思っています。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 私は、地理や歴史が清水書院であれば清水書院でいいと思うのですが、この公民についてはあまりよくないです。1つ言うと、裁判員制度のことです。裁判員制度というのは、70%から80%ぐらいの人が反対していて、以前も行われましたけれども、なし崩し的になくなった裁判なのです。私個人としては、とんでもないという立場なのですけれども、ほかの出版社は裁判員制度に触れて、結構踏み込んで裁判員制度の後に「裁判員制度の定着に向けて」と書いてあるのですね。ですから裁判員制度が始まるに当たって、自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じたり、自分が冷静に判断できる自信がないため、裁判員として裁判に参加したくないと思う人もいました。これは私のことなのです。これをみんなが感じているわけです。しかし、本来定着していくように取り組もうというのは、今、とても問題となっている、特に70%から80%が世論調査で反対したまま行われて、これからどうなるかわからないというものを扱うときに、少し教科書としては、定着に向けてというのは不要だという気がいたします。

ですけれど、清水書院のいいところは、何かいとおしいのです。一生懸命つくっていて。だけれど印刷、紙も悪い。貧乏だけれど志は高くという、国立市の教育に沿っている。清水書院のものは、学ぶということで、公民に関してはいいという気もします。ただし、地理と歴史が東京書籍ですから、判を一緒に合わせたほうがいいということで東京書籍にいたします。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

中村委員。

○【中村委員】 必ずしも3つをそろえたほうがいいということではないと思うのですね。ですけれども教科書の採択のときに、内容もさることながら、紙の質が悪くて後ろにすけてしまうことや写真

が不鮮明などということが実際に教科書を使う先生や子どもにとってはどうなのかということで問題になることがあります。採択される数が多い教科書出版社は、それだけ財力も豊かになり、取材やいろいろな著作権取得にお金が使えて、いい教科書をつくることができ、そしてまた採択率がふえるとだんだん独占になっていくということも起こると思います。もちろんいい教科書が採択されることはいいことですが、紙の質とか図版の明晰さとか、そういうところで差が出ないようにすることもどこかで考えなければいけないのではないかと思います。清水書院についての審議委員会の報告書も、内容については特に問題という形ではっきりと指摘はされていなくて、資料、写真が小さくて見にくい、紙が薄い、写真の印刷が暗いなどが指摘されています。これから、こういうことが決定的な分け目にならないようにすることも、今後は考えていかなければならないのではないかと感じました。

○【佐藤委員長】 嵐山委員。

○【嵐山委員】 清水書院は、ジャーナリスティックなのです。ジャーナリスティックなところがあって、私の好みとしては清水書院がいいですね。ですけれど教科書ということで考えると、やはり東京書籍のほうになるということです。

○【佐藤委員長】 是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 社会の公民的分野は、現在の政治、経済、社会の仕組みを正確に理解させるということと、何よりも子どもたちみずからが社会を構成する一員なのだということを自覚して、自分たちの暮らしを取り巻く事象に深い関心を持たせるということが必要だと思います。そしてそうした暮らしの中にある伝統や文化にも目を向けさせるということの教科だと思います。

この中で、社会的な事象に深い関心という点においては、実際、大人の社会においても議論が二分されるような現代的な課題も当然触れざるを得ないわけですね。しかしながら発達段階という、中学生という発達段階の中で、それをどうするかということをそれぞれの教科書会社で模索しているように思えます。中には思い切って踏み込んだ議論を提示したところもあれば、あえてその議論を避けるように少しオブラートの表記をしているような教科書もあると見受けられます。非常にこれは今の公民的分野の教科書会社が一番悩むところだとは思いますが、いずれにしてもやはり子どもたちにさまざまなそういった事象に対しては考え方があるのだということをしっかり記述すること、それからそういった資料をしっかりと提供して、今後の子どもたちの発達段階に応じた段階での判断をさせていく教科書がいいのではないかと思います。どの教科書もなかなかそこは一長一短があって、絶対にこれというような教科書は正直ありませんでした。

そうした中で、先ほどと同じですけれども総合的、総合性からの教科書ということで、地理、歴史と同じく東京書籍ということで推薦したいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も意見を申し上げます。今、教育長が話された公民的分野の目標を踏まえて、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養い、社会の変化に対応した法や金融などに関する学習にも注目して教科書を読みました。最終的に東京書籍を推薦したいと思います。

米田委員から、公民とはという箇所も詳しくお話していただきました。私も同じ感想を持ちました。また東京書籍は、巻頭で地理、歴史で学習したことや環境への取り組みを、写真や言葉で紹介し、吹き出しを使って疑問や課題を提示していました。これは地理、歴史、公民の対象に迫る視点や切り口、また課題としての設定の仕方や、課題から見えてくるものなど、3分野それぞれの違いや特徴を生かしながら、多面的・多角的に激動する社会のさまざまな問題や事象を考えていくという、極めて

大切なことを示していると思います。

またAB判であること、それから資料も豊富であり、レイアウトも見やすく、落ちついた印象を受けました。また「確認」を初めとして、「公民にチャレンジ」や「鉛筆マーク」、「トライ」、また章末の「振り返ってみんなで考えよう」など、考える課題も多く、言語活動例も豊富だったと思います。

それから導入の工夫についてですが、「社会集団の中で生きる私たち」では、漫画を使って考える場面を設定し、学習を組み立て、生徒が身近な問題として興味や関心を持って取り組める工夫がありました。また問題の状況を整理してから、複数の意見を紹介し、グループでの話し合いへとつなげていました。具体的で身近な問題を自分の頭で考え、またグループで話し合う中で、効率や公正など、実感としてとらえ、自分の言葉で説明する流れになっていました。

また「現代社会と私たちの生活」では、ふだん利用しているスーパーマーケットのイラストから、グローバル化や情報化、少子高齢化といった現代社会の問題にアプローチしていました。「現代の民主政治」では、市長になって企業の跡地利用を考えてみよう、「私たちの暮らしと経済」では、コンビニの経営者になって新店舗の場所を選ぶという導入もおもしろいと思いました。

東京書籍は、考えたり判断する場を設定し、社会事象や課題と言われている事柄も実は自分と無関係ではなく、生活にかかわる身近な問題を含んでいることを気づかせる内容構成になっていたと思います。また、いろいろな立場の人の声を取り上げて、自分で考え、自分の意見を持つことが大切であるということを伝えていると思いました。

また「インターネットと人権」でも、ネットの匿名性に触れ、法務省のデータを資料としてインターネット上の人権侵害も扱っていました。それから先ほど感想でも出ましたけれども、最後にレポートを作成し、その後で探究を社会参画へとつなげている活動例を4つ挙げていたところもよかったと思います。

それからこれは審議会の報告にもありましたけれども、巻末の資料で参考法令集、また難しい用語の解説がっていました。学習に必要なだと思います。ちなみに清水書院もこの説明についてはついておりました。

以上の理由で、東京書籍を推薦したいと思います。

さまざまご意見が出ましたが、採択では純粋に子どもたちが使う教科書としてどうなのかということと話を進めていきたいと思います。また、内容や使い勝手も含めて多角的な視点から総合的に判断をしていきたいと思います。米田委員からは東京書籍、中村委員は清水書院、嵐山委員から東京書籍、是松教育長から東京書籍、佐藤も東京書籍という推薦でした。

東京書籍が圧倒的に多かったと思いますが、何かご意見があれば伺って決めたいと思いますが、いかがでしょうか。

中村委員。

○【中村委員】 私も東京書籍に全体的には好感を持っています。ですから東京書籍は絶対だめであるということは申し上げるつもりはありません、全体的によくできた教科書だと思っています。よく理解をして、そして活動なり課題をやることによって、授業の中で考えるだけではなく、本当に実生活で中学生のときから市民として考えるということ、どんな教科書を使うのであれ、先生たちにはぜひ頑張ってもらいたいと思っています。私も東京書籍を採択することについては、特に皆さんの意見を認めないというわけではありません。全体的に一番きちんと読んだのが東京書籍と清水書院でしたが、

採択することに反対ではありませんので、東京書籍でいいと思います。

○【佐藤委員長】 それでは社会、公民的分野については東京書籍を採択することによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 社会、公民的分野は東京書籍を採択することといたします。

続いて社会、地図についてに移ります。皆様のご意見を伺います。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 地図については、東京書籍と帝国書院のこの2社が選定の結果、出てきております。東京書籍は社会科の教科書がA B判だったにもかかわらず、地図は少し小さいB 5判ということで、帝国書院はA B判という体裁をとっております。やはり大きい判になっただけ全体の地図の大きさ、見やすさといったものは帝国書院に利点があったと思います。

まず最初の地図記号のところですが、これは帝国書院は非常に大きくて、わかりやすい、見やすいという特徴がありました。

それから世界の地図の場合にも、各州だけではなく、そのポイントを絞って、少し拡大したような地図もたくさん載っていました。それからアジアの地図でいいますと、大陸から日本を見渡す地図というものがあまして、いつも日本から大陸を見ているという逆の立場から見ると、日本と中国、朝鮮との関係、交流が非常に理解しやすいということがありました。

それから中近東の地図に関しては、イスラエルとパレスチナの拡大図というものがあまして、パレスチナ問題のときに参考にするには、地名や地図の形が大変大きいということでわかりやすいと思います。

それから日本の地形図でいいますと、各地方の大きな地形図だけではなく、例えば九州の場合には福岡県を中心にしている。そして四国の場合には香川県の拡大図、それから中部地方の場合には新潟県の拡大図という形で、一般的な図だけではなく、それぞれの地域の中心地の拡大図があったのが非常に見やすいと思います。東京の場合にも東京都のその周りということで、非常に拡大率の大きい東京付近の地図が載っていますし、さらに江戸時代の江戸とは、江戸時代の大阪など、そのような地図も載ってありました。

そして全体に地形図の中で、特徴としては特に沖縄県の地図が大変大きくて、さらに例えばその部分図としてアメリカの基地を青で囲むという形で、一目で、沖縄にはアメリカの基地がこれだけあるのだということがわかるような工夫がなされていました。

こういう形で世界地図においても日本地図においても、A B判で大きく、そして拡大の度合いが大きいということは非常に見やすいということで、帝国書院のこの教科書は圧倒的に使いやすさもあり、そして使い勝手もいいと思いました。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかの委員の方、いかがでしょうか。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 帝国書院ですね。大きいし見やすいし、海底のプレートなどについても今回の地震のことではどういふぐあいなのか。テレビなどの表示は、ここからとっているのではないかなと思うくらいわかりやすいです。また、やはりこの表紙の強さがいいです。うちでも地図というのは、子どもが結婚していなくなっても、中学校のときの地図を使ったりします。家でも使えますし、役に立つ

ものです。それから、毎年新しいデータを載せています。東京書籍も同じですが、索引が小さくて読めないというのは仕方ないことだと思います。それから世界の全体から見る図、大きさ、正確さ、全体的に総合力で判断して、帝国書院がいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

中村委員。

○【中村委員】 昨年の小学校の地図の採択のときにも感じたのですが、東京書籍は何か資料を入れ過ぎてごちゃごちゃしているところがあって、そこがやはり見にくい点かと思います。帝国書院は先ほど米田委員もおっしゃったようなさまざまな工夫があって、めくっていて楽しく、子どもが卒業してしまうと新しい帝国書院の地図がもうもらえないのは残念だと思うくらいです。

以上です。

○【佐藤委員長】 是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 大人の感覚からすると東京書籍のほうが地図らしいです。それはなぜかといいますと等高線的な表示は意外とメリハリつけてつくってあるのですが、逆にそれが子どもには目ざわりといいますか、見にくいような感じをとられるということが、現場からの意見でもありました。

それから帝国書院の場合A B判なのですが、どういうわけですか社会については、東京書籍はすべてA B判なのに、地図はB 5判というところがあります。今までの採択の中で社会は地理、歴史、公民とも東京書籍を選んで、それがA B判ですので、帝国書院のA B判を採択すると統一化された構成になるということもありますので、帝国書院のほうでよろしいのではないかと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も感想を申し上げます。確かに東京書籍は限られたスペースに少しでも多くの情報を入れるということなのでしょうが、やや見づらい印象が否めない点がありました。地図の読図や作図、また地図の活用を中心とした地理的スキルを育てていくことは、これからますます重要になることを考えて、私も帝国書院を推薦したいと思います。

まず基本図、資料図ともに数が多く、種類も豊富で扱う分野も偏頗なくまとまっていました。また全体的に明るく、落ちついた色調でした。統計資料のグラフや写真なども質、量ともに充実していました。また初めにある地図帳の使い方では、何かを探したいとき、調べたいときのために「こんな時どうする？」があり、地域の特色をとらえるポイントや比較の事例もありました。また地図を見る上での着眼点やポイントを示した「地図を見る目」や、航路や河川を指でたどったり、地図や資料を活用して調べ学習を進める「やってみよう」や「手がかり」「トライ！」などなど、地図の読図や作図をしながら課題を考えたり、資料を活用する場が多く設定されていました。

それから高速道路網の変化や、湖の透明度の変化、東京の気温の比較、また国境の変遷など、新旧の地図を比較し、関連を図るものも多くあり、地域の課題や将来について考える学習につながると思いました。

皆様のご意見をお伺いしました。各委員、帝国書院を推薦したいというご意見でした。社会、地図については帝国書院を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 社会、地図は帝国書院を採択することといたします。

続いて数学についてに移ります。皆様のご意見をお願いします。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 数学の教科書につきましては、現在、国立市で採用しております東京書籍の教科書を続けて採用するほうが良いと思いました。

理由といたしましては、非常に生徒が理解しやすい形での記述があります。例えば各章の問題がある場合に、クエスチョンがあつて、それを解く例があり、確かめがあつて、そして答えがあるというような形で理解の進化を促すのが非常に効果的な編集になっているということがあります。そして、その理解をさせる上での工夫としては、最初に割と具体的なものを扱わせて、それを数にしていくという工夫があります。例えば1年生の文字と式のところでは、マッチ棒を使って、それを式にあらわすということをやっております。さらには等式のところでは、てんびんを使って考え方を非常に具体的に導き出しているというところがあります。

それから3年生の因数分解のところでは、巻末に大小のパズルがありまして、それを使って例示をしているという割と具体的なところから理論的なところに入っていく段階が大変丁寧だと思います。

さらに問題、各章の最後に章の基本問題があつて、さらに章の問題がA、Bと分かれていて、Aが国立市の習熟度別ということを見ると、それが選択できるという、A、Bともにやる必要はなくAだけをやれば良い、そういうクラスもあるだろうし、Bをやるクラスもあるということで、習熟度別の指導に大変その章の問題は便利であると思えます。

さらに発展する問題として、巻末に問題集がついていて、それは家庭学習の中でやるという形がはっきりしております。さらに問題の答えが、すぐ次のページに出ていなくて、巻末にまとめてついているということも、子どもたちがすぐ答えを見ないで、自分で頑張つてやってからということ促しやすいと思えました。

それから、この問題解決の方法としては、各学年の復習が巻末にきちんと書いてあつて、さらにはノートの例が各学年に1つずつ、非常に詳しく、こういうノートのとり方が良いということがありますし、またそれぞれの章の中に実際に板書で書いてあるような解答例があるということで、子どもたちがどう式を解いていくかという過程もきちんと示してあると思えます。

数学というものは大変子どもたちにとって厄介な教科でもありまして、学習意欲を高める工夫というものが大変大切であると思えます。その中で、生徒役の人が考えのヒントを提示しているというようなところは、子どもたちにとって非常に共感が持てる場所ではないかなと思えます。

そして調査委員の先生方も、現在使っている教科書であり、非常に使い勝手が良いという報告もなされていますことから、東京書籍の数学の教科書を推薦いたします。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 これまでの教科書がどちらかというと文字世界の教科書であったのに対して、数学の教科書を開きますと数字と図形の世界ということで、具象絵画から急に抽象絵画を見せられたような感があります。教科として苦手意識を持ちやすいという一番の教科だと思います。私も西東三鬼の「算術の少年しのび泣けり夏」という句が、自分のためにつくられたのではないかと思っているぐらいに、当時は思っておりました。そういった意味では、やはり数学的な考え方や表現がわかりやすく習得できるということ、そして数学の楽しさやおもしろさを実感していけるという教科書が良いのであると思えます。

そこで、総体的によいのが、構成や内容、それから理解、興味の引きやすさの点から、私も東京書籍が良いと思えます。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 数学の教科書は、あまり必要ないと思う気がするのです。もちろん教科書は必要なのですが、先生の腕次第なのです。

結論的には東京書籍がいいのですが、今までも使っていますので。教科書の役割というのは、数学的なものの考え方を、こういうふうにすると便利だと、例えばXとYを使うことによって、小学生のときと違って、何だか簡単に解けてしまって得をした気持ちになります。はるか昔ですけれども、方程式を覚えると、便利なものだということを考えた記憶が私にもあります。ですから、数学的な考え方や、例えば幾何などでも線を1本引くとぱっと謎が解ける。一気に1本の補助線ですべてがわかるような、そういう魔法の世界のような楽しさがあります。実際に、受験のためになると、別にドリルがあったり、塾に行ったり、それなりのまた別の方法が必要だと思います。しかし、学校の教科書の役割というのは、やはり数学的なものの考え方、それから数学は苦手な子どもが多いので、嫌にならないよう、こんなにおもしろいものですよと、また、覚えると便利になりますというもののなのです。ですから、先生の腕が非常に問われるところで、今まで東京書籍の教科書がずっと使われてきたという経緯もありますので、大きさからいっても、やはり現行の現在使っている「新しい数学」がいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 今回数学も配当時間がふえて、その分教科書が厚くなっていると思います。ただし教科書が厚くなった分を全部授業でやるのではなくて、配当時間外の課題というところで、各社ともとても工夫をしていると思います。しかし、自主学習ということで、「興味のある人はやってください」にしてしまうと、ますます差が開いてしまうかもしれないと考えると、いかに自主学習のやる気を生徒たちに持ってもらおうかというところが、今、嵐山委員がおっしゃったように、先生方にとっては腕の見せどころであると思います。

特に小学校から中学校にかけて、各科目で得意な子、不得意な子はあると思うのですが、何となく中学校ぐらいから、数学ができる子は頭がいい、数学ができない子は頭がよくないというとらえ方があるように思います。英語や国語などができる子は優秀であると言われるけれども、頭がいいとは言われないうということもあると思います。なぜか数学という教科が、子どもたちの間でも一般の社会でも、頭がいいかよくないかということの判断の1つになっているところがあります。でも私は、丁寧にしっかり教えてもらえれば、中学校の教科書のレベルは全員がきちんとわかると思うのです。ですからその点でいいますと、東京書籍が「確かな学力を、すべての生徒が獲得できるように編集しております」と書いてあるので、その心意気はとてもいいと思いますし、そういう観点で工夫もされていると思います。

今回、教科書が厚くなっていて、東京書籍は7冊中4番目で中くらいであると思います。ついでのいいですと、学校図書保護者へのメッセージで、「子どもたちが確かな学力を身につけることを願っています」と書いてあるのですが、「願っている」だけではなくて「やりました」というぐらいの心意気を書かないと思います。啓林館は「数学的な見方、考え方が身につくようにつくられています」ということです。ですから、啓林館も、知識だけではなくて、見方、考え方というところではかなり工夫をしていると思います。数学的な見方、考え方ということでマークをつけているほか

に、話し合いの仕方、発表の仕方、聞き方、まとめ方、これは数学に限らずすべての教科でもやっていると思うのですが、そういうところに工夫がされていると思います。

もう1つは、私は索引を見たのですが、索引にグラフや式とか図形が入っているものがありました。東京書籍はそうです。大日本図書は人名を青で入れているところが工夫していると思いました。学校図書は索引に図形が入っています。おもしろかったのは教育出版で、移項というのは英語で何というのかなど、索引の項目に英語が入っているのです。そうすると、数学は少し苦手けれども英語が大好きという子どもは、これを見て、「ああ、何だ。こういうことなのか」とわかったり、外国の中学生が来たりしたときや、自分が高校生になったときに外国に行ったりするときには便利だと思います。このことは教科書採択の決定的理由にはなりません、私はなかなかおもしろいと思って、注目したところです。

索引に記号の欄があったりなかったりするのですが、教科書にきちんと索引があるということはとても重要だと思っています。その観点から一番おもしろかったのは教育出版だったのですが、教科書としては東京書籍がいいと思います。

自主学習を宿題で出すことも多いと思うのですが、出しっぱなしだと生徒たちはやってこないでもいいと思ってしまうので、限られた数の宿題を出して、必ずそのことは授業で取り上げて確認するということが、自主学習がふえるだけに必要ではないかと思っています。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も東京書籍を推薦したいと思います。数学は常にこれまで学習したことをもとに、発展的に学習が進められていきます。東京書籍の教科書は、理解が弱いところや忘れてしまったところまで戻ってやり直したり、自分で学習を積み上げていける工夫が随所に見られました。生徒にとって理解する手がかかりをつかむことはとても重要であると思います。同時に発展的な題材も多く扱っていて、生徒の学習状況や理解の程度、また興味・関心など、個に応じた使い方のできる教科書だと思いました。

ほかの委員からもお話がありましたが、学習の進め方も段階を踏んでとても丁寧でした。また問題もさまざまな種類がありました。その問題についてですが、数字や言葉で答える問題に加えて、考えを説明したり、間違いを直したり、話し合う問題も含まれていて、言語力や活用する力を向上させる取り組みが見受けられました。

それから「ちょっと 確認」や「まちがい例」など、既習内容を確認したり言葉をわかりやすく言い換えたり、また間違えた例を示して理由を説明したり、正しく直したりするなど、基礎・基本を定着させるための工夫も見られました。

さらに東京書籍は、教科書の初めに数学の学習の手引がありました。授業中や家庭で学習する際の心がけや、ノートについて注意することの記述もあり、とても大切なことだと思います。

また「数学のまど」、「数学の探究」、「生活と数学」など、数学的な考え方が社会や生活において活用されていること、また数学の持つ魅力や広がりを感じられるような工夫が見られ、特に人口ピラミッドを活用して、実際のデータから少子高齢化の問題に迫ったり、相似の学習を活用して紙の大きさとコピーの倍率を考えたりなど、非常におもしろいと思いました。

また単元の導入についても、身近な生活から数学的な考え方を生かして答えを導く問題を提示して、興味・関心を高めてから、この章で学ぶこと、考えていくことが明示してありました。

それから既習事項の確認や大切なところなども色分けがされていて、わかりやすいと思いました。

皆さんのご意見が東京書籍ということで、同じようでございます。数学については東京書籍を採択

することによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは数学は東京書籍を採択することといたします。

続いて理科に移ります。理科について皆様のご意見を伺います。いかがでしょうか。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 社会では全部東京書籍でなくとも言ったのですが、理科は東京書籍がいいと思ったのです。コンセプトがはっきりしていて、無駄なく見やすいというところがとてもいいです。東京書籍の地図はたくさん詰め過ぎてごちゃごちゃしている感じがあったのですけれども、理科のほうは、図解と、すっきりとまとめるページの構成が非常にいいと思いました。

大日本図書も非常に興味を持って読んだのですが、大日本図書のほうはむしろたくさんのことを書き込んでいると思いました。それはもちろん現場の先生がどちらをどのように使うかということにかかわるのですが、私の印象では東京書籍は図解や要点をわかりやすく提示しているので、その提示の仕方に基づいて、教室では先生がそれについて説明をするといえますか、先生の力量はいかにそれを補って足し算をするかになるかと思います。

一方、大日本図書のほうは、さまざまなことが書いてあり親切で、関心がある子は家で丁寧に読めばなるほどとわかるかもしれませんが、授業でそのまま使うと何が大事なかわからないという印象もありました。大日本図書のような教科書を使うときの教師の力量は引き算といえますか、たくさん書いてあることは基本とした上で、実は大事な流れはこれなのだということに、「ああ、そうなのか」と子どもに納得させることが求められます。こうした意味で、東京書籍は教師は足し算、大日本図書は教師は引き算という印象を持ちました。

そのどちらが使いやすいかということと言うと、それはやはり現場の先生たちの意見を一番重視して決めるべきだと思います。

科学史とか人物伝について、昨年の小学校の教科書採択のときにも随分言ったのですが、今回の中学生の教科書では科学史などでは単位の名前になっている人たちを随分と取り上げているので、女性の登場が極端に少なくなります。先ほどは大日本図書について少し否定的な意見を言ったのですが、女性が2人出ているのは大日本図書だけで、東京書籍、啓林館、教育出版、学校図書は、女性はゼロです。大日本図書は、DNAの発見というワトソン等に先立って、ロザリンド・フランクリンという人が放射線の技術を使って、DNAの構造を既にある程度解明していたことを取り上げています。それを1つの土台として理論化したのがワトソンたちだったので、なぜロザリンド・フランクリンにもノーベル賞が与えられなかったのかということは今でも問題になっているほどです。ですから、ここでロザリンド・フランクリンを出しているのは非常によかったです。

小学校ではキュリー夫人やレイチェル・カーソンなどが出てきていたのですが、今回はレイチェル・カーソンは1回も出ないで、しかもキュリー夫人は大日本図書では夫妻で一緒に写真のうちの1人として出ていました。科学史の中でもあまり女性が出てこないのは残念でした。その点からいうと、大日本図書はとてもいい教科書です。それだけではもちろん決められませんが、ほかの出版社の教科書で女性の登場がゼロだっただけに、そういう配慮は非常に重要だと私は思っています。これから子どもたちが科学の世界に入っていくとすると、とにかく男ばかり並んでいる中で、「では私が行くわよ」という子ももちろんいるとは思いますが、何となく入りにくいと考える女子生徒もいると思います。

しかし、今回の教科書のキャラクター設定では、男の子と女の子が特にその役割を分担するということがなく、むしろ女子生徒のほうが発言回数も多かったり、積極的な意見を述べているところがあり、私はうれしく思いました。

それでも、教科書の挿絵で、鏡を取り上げているところで鏡をのぞいているのがなぜいつも必ず女の子なのかということは今後考えてほしい点です。

今回、原発の事故がとても問題になっていますが、大日本図書はそのことについての叙述は充実していると思いました。ほかの出版社も取り上げていないわけではないのですが、私がいいと思ったのは、原子力発電をどういう仕組みでやっているかを書いていることです。利点などは社会科の教科書にも書いてあるわけですがシーベルトという単位や、放射線とは何かということを経理科として基礎からきちんと丁寧に解説しているという点では、やはり大日本図書はいいと思います。もちろん危険であるとはっきり言っているからいいとは限らないで、ほかの教科書にもかなり放射線の危険性をもっと強い言葉で表現している出版社もありました。もちろん教科書だけで教えるわけではありません。そういうことを考えれば、大日本図書のシーベルトについてのきちんとした解説は、重要だと思っています。きょうも新聞で福島第一原発のところでは10シーベルトという値が出たことが報道されました。今まで1年間に1ミリシーベルトが限度と言っていたのに、10シーベルトはミリシーベルトにすると1万ミリシーベルトです。残念ながらこれから日常的に目にし続けるであろう、そういうことについてのきちんとした理解をするという点では、大日本図書はいいと思います。一方で、放射線の人体に与える影響を、どれくらいだったらこうであるという図を出しているのは教育出版だけです。理科の教科書としては、あまりたくさんのかを書かずに原理をストレートに書いている点で東京書籍はいいのではないかと思ったのですが、現場の先生はどちらかというと大日本図書がいいようです。先ほどの女性の扱いという点では大日本図書がいいと思いますし、放射能等についての基礎的なことを理科の立場から書いているという点で、結論としては大日本図書はいいのではないかと思います。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかの委員の方、ご意見いかかでしょうか。

是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 理科に関しては時節柄といいますか、私もやはり原子力エネルギーの問題、それから地震、津波の自然災害の取り扱いというのがどのように書かれているのかということが気になりました。もちろん3月11日の段階ではもうこの教科書はすべてでき上がっておりましたので、3.11を受けての記述にはもちろんなっていないので、その当時の記述としては今後その記述内容で教科書として用いていくとしたときにどうであるかというところで少し見てみました。

東京書籍の場合、津波については津波が発生することもあるという程度の記述なのです。写真などはスマトラ地震の写真が載せてありますけれども、いま一つ津波の激しさというのが伝わってこないというのがございました。また原子力の説明は非常に淡泊で、またエネルギーの代替エネルギーなど、その他のエネルギーについての記述も少なく感じました。

その他の教科書もそれぞれ長短ありますが、学校図書に関しては、3年生の理科の原子力関係のところ、福島第一原子力発電所の写真がまともに載っています。これは当然壊れる前の写真ですが。この写真がどうなのかということがありました。それから同じく3年生で放射線利用の事例件数について多く載せているのですが、このことは多分、放射線がさまざまに利用されているということで肯定的に載せてあると思うのですけれども、その中の食品で、特にジャガイモへの照射の写真などがあ

ったのです。しかし、これが今後放射線の問題の議論の中で、果たして教材としてどうなのかというところは難しい取り扱いになりそうであるという気がしました。

大日本図書を現場では推していますが、大日本図書の教科書の津波に関しては、大きな被害を起こすことがあるという記述で、奥尻島の写真を載せています。これは非常に今回の東日本の被災と同じような写真になっていて、被害状況がよく伝わってくる写真だと思いました。どうしてもだんだん日がたってくると被害のすさまじさや恐ろしさは忘れてきますので、東北地方の方々からすれば、あまり思い出したくないことかもしれませんが、教材としてはやはり子どもたちに地震災害、津波の恐ろしさというのをしっかり教えていく必要があるのかと思います。

大日本図書の原子力利用に関して、原子力の利用の課題には一番詳しく触れていると思います。ただし、再生可能エネルギーやその他のエネルギーの説明はやや少ないような気がいたしました。

総体的に見まして、やはり現場でいう、理科の観察や実験を通して科学的な探求心、探究能力などの基礎を育て、科学的リテラシーを養うという教科書としては現場も推薦する大日本図書の教科書で、よろしいのではないかと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。では、ほかの委員の方、いかがでしょうか。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 大日本図書は写真がきれいで、それから説明がわかりやすくいいと思います。エネルギーに関しては、東京書籍と見比べましたが、甲乙つけがたいです。東京書籍は、原子力発電と水力発電だけをまず出して、地熱、風力、それからバイオマスも出しています。大日本図書のほうはバイオマスなどが後ろのほうに載っていて、写真は風力発電が載っていて、わかりやすいですね。

理科も難しいですが、文字の大きさ、形、すべてが十分に考慮されている大日本図書がいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では米田委員、お願いします。

○【米田委員】 今、大日本図書を推薦するというお話が出ておりましたが、私も大日本図書の記述は、理科を得意とする出版社ということでもありまして、非常に細かいところまでの記述がとてもわかりやすいと思います。1年生の一番最初に植物が出てくるのですが、植物の絵や写真が非常にわかりやすく、見ていてもはっきり理解しやすい記述であると思います。そしてさまざまな植物の部分を顕微鏡で見たりするのですが、1年生のときの顕微鏡の写真が非常によくわかりやすいです。顕微鏡で見た写真というものが非常によくわかりやすいのと同時に、1年生の場合には300倍と書いてあります。しかし、1年生から3年生までの発達段階に応じて、きっちり縮尺して表現して倍率の書き方も変えていくと非常にきめ細かさがあると思いました。

さらに、今は課題学習的な動きというものを非常に各教科注目をしておりますけれども、大日本図書の場合にも、きちんとこのレポートの具体的な例ということを挙げまして、課題を決め、計画を立て、観察、実験をする、そしてその結果をあらわし、まとめとして発表するという1つの課題学習の流れというのも非常に意志的に、具体的な例を挙げているということが説得力があると思いました。

それから今、いろいろ話題になっておりました原子力の利用の課題という、これは3年生のテーマですが、3.11の前に書かれた中では、比較的詳しく書いてあると思いました。人体や農作物への被害や放射線、 α 線、 β 線があるということなど、また何もしなくても自然放射線というのを浴びて年間2.4ミリシーベルトをこの事故の前でも浴びているのだということも、なかなかおもしろい指摘だ

ったと思います。非常に理科の場合には専門的な知識をどのくらい子どもたちに興味を持って伝えるかということが勝負だと思いますが、そういう意味で大日本図書の編集は非常に子どもたちが興味を持ち、なおかつ課題学習にも対応し、そしてさまざまな情報を非常に詳しく、もちろん先ほど中村委員が引き算か足し算かということをおっしゃいましたが、ある意味引き算のほうが教科書を使う場合には少し楽であるのではと思いますので、現場の先生方からの推薦もあるということで、大日本図書を推薦いたします。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も感想を申し上げます。大日本図書は、観察、実験などの活動が質、量ともに充実していました。体験活動を重視しながら基礎・基本をしっかり学習し、身近な自然の現象や生活と関連づけをしながら学習を進めている教科書だと思いました。本文も丁寧な記述で、写真やモデルの図も見やすく効果的だったと思います。私も大日本図書を推薦したいと思います。

原子力、地震、再生可能エネルギー等につきましては、ほかの委員がお話しされましたので、別のことをお話ししたいと思います。大日本図書は単元の導入が非常にわかりやすく、見開き2ページを使って、左ページは「これまでに学習したこと」で既習事項を確認し、右ページでは「これから学習すること」として学習の見通しが持てるように工夫されていました。また実験や観察のページには、必ず必要なもののリストがあり、さらにチェックができるようになっていました。先生の用意したもので実験に取り組むというよりも、必要なものを自分でチェックして学習に臨む姿勢は大切だと思います。また器具や装置の使い方などをまとめた基本操作や事故を防止する注意の表示、また巻末には「化学実験を安全に行うために」があり、安全面でも配慮されている点が多かったです。

また観察や実験の結果を分析、解釈して考察へ進むための視点を示した「考えてみよう」があり、特に「分析しよう」「きまりを見つけよう」では、結果を表やグラフにあらわし、話し合いを中心に規則性を発見したり、課題を解決する活動へと導いていました。結果を整理してまとめる、先ほどお話ししましたがレポート例、それから発表の仕方も複数提示されていて、観察や実験の一連の学習を通して思考力、判断力、表現力を身につけながら課題解決型の学習を進めていける教科書であると思います。

また大日本図書は、基本的な実験に加えて、素材や方法を変えたり、計測機器を使って行う実験もあり、さらに学習を広げ、深めるための「もっと」や「やってみよう」、「つくってみよう」もありました。また発展的な内容も非常に多く扱っていて、生徒の興味・関心や習熟の程度に応じて使い方ができる、さまざまな使い方が可能な教科書であると思います。

それから小単元に問いがあって、基本を押さえ、章末には学習内容を確認する問題がありました。問題はいずれも考えを整理して、説明させる問題も含まれていて、学習の定着を図ることができると思います。またトピックや「くらしの中の理科」も非常におもしろくて、ドライアイスの状態変化、それから介護の仕事と力の学習など、非常に興味深いものがありました。

皆様のご意見を伺いました。中村委員も最終的には大日本図書がよろしいのではないかという意見だったと思いますが、よろしいでしょうか。

○【中村委員】 はい。

○【佐藤委員長】 それでは採択に入ります。理科につきましては大日本図書を採択することによってよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは理科は大日本図書を採択することといたします。
兼松教育次長。

○【兼松教育次長】 委員長。休憩をお願いしたいと思います。

○【佐藤委員長】 では2時間半を過ぎましたので、ここで休憩をとりたいと思います。それでは休憩時間を10分ほどといたしますので、議事再開は4時40分としたいと思います。よろしくお願ひします。

午後4時30分休憩

午後4時41分再開

○【佐藤委員長】 それでは議事を再開し、採択を続けたいと思います。

続きまして音楽に移ります。音楽、一般について、皆様のご意見を申し上げます。ご意見のある方、お願ひします。

是松教育長、お願ひします。

○【是松教育長】 音楽の場合は2社ですね。2社のうちどちらかということになるのですが、やはり音楽は、「音を楽しむ」と書くわけで、音楽自体を楽しむということが、1つ脳細胞にも働きかけが行われて、心の栄養剤、あるいは活性化につながり、気持ちを和らげたり、奮い立たせたりするような音楽は効果があると思います。そうすることによって豊かな情操を養うという目的があると思いますが、中学校の場合にはやはり合唱コンクールという中で音楽に携わるといいますか、子どもたちが音楽を行うことが一番多い時間になると思います。

学年を通じてやはり教育芸術社の教科書のほうが、そういった意味では合唱コンクールを意識してかどうかはわからないのですが、非常に指揮に詳しく記述を割いているというところで、私は教育芸術社がよろしいのではないかと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。

嵐山委員、お願ひします。

○【嵐山委員】 私は、音楽は好きですが、授業は苦手で大嫌いでした。今もってそれが尾を引いています。

正直言って、両方ともあまり私は引きずり込まれるということはないけれども、教育芸術社のほうが合唱をメインに取り上げていて、合唱なら私でも一緒に歌え、参加できるのではないかなという感じを持ちました。

それから教育出版の「音楽のおくりもの」のほうは、何か楽譜の音符だけが目立ってしまって、入りにくいという感じがしました。英語と同じで、音符もまた難しいもので、それまで縁のない人間から見ると不思議な印がいっぱいあるという感じです。ですので入り方としては教育芸術社のほうがいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

米田委員、お願ひします。

○【米田委員】 音楽の教科書に関しては、教育芸術社の教科書を推薦したいと思います。音楽に関しては、まず一般が1年生1冊、そして2・3年生という形で、それぞれ上下がありますので、全部で3冊あります。基本的に教育芸術社は、1年生の場合には比較的基本的な合唱、さらには指揮、そういったものを非常に丁寧にまとめていたと思います。特に全校合唱の歌としてよくなじんだ歌、さらには合唱としてのおもしろみのある歌ということ割ととっていたと思います。

2・3年生の発展の段階の音楽として、例えばオペラであるとか、四重奏曲など、そういう鑑賞の部分でもかなり専門性の高いものを取り上げていたように思います。さらには今度の学習指導要領の改訂で、伝統音楽に対しての理解を深めるという、これをどう扱うかというのはなかなか難しいと思います。そういう伝統、ふだんあまり耳にしない音楽を日本の伝統の音楽としていかに興味を子どもが持って聞かすかというものの工夫ということが大変重要であると思いますが、それを歌舞伎や文楽、そして日本の郷土芸能などを窓口にして、子どもたちに興味を持たせる工夫をしていたと思います。

そういうことと、さらに楽譜に関してもやはり教育芸術社はすっきりとした楽譜でわかりやすく、合唱コンクールなどで使う場合にも大変参考になるだろうと思います。

ただし、音楽の教科書に対する要求として少し難しくなってきたと思うことは、伝統芸能に対する理解を深めるということで、そのことに時間をとられるということがあるわけで、西洋音楽の流れというものをたどらせるというところが少し薄くなってきつつある、特に音楽の鑑賞ということに関しては大変数が少ないと思いました。そして流れをたどるような鑑賞というよりは、かなり有名な曲を聞くというところにとどまっていて少し残念であると思います。一般として使う場合の教育芸術社の特徴というものは捨てがたいと思いますので、教育芸術社を推薦いたします。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 私も教育芸術社がいいと思います。先ほどから、合唱の指導に関連して、指揮のことが詳しく書いてあるということが指摘されています。指揮をしているところの挿絵が中学生の男子生徒も女子生徒も両方出てくるという点が、私はいいと思います。それからキャラクター的な男の子、女の子がいるのですが、教育芸術社では同じような言葉遣いをしていますが、教育出版では男の子は「～しよう」などで、女の子のほうは「おもしろいわね」と「～かしら」などと言っています。言ってもいいのですけれども、同じような言葉で表現できる場合には、ことさらこのようにする必要はないのではと思っています。

先ほど、楽譜の見やすさということが出ましたけれども、教育芸術社は小節の長さを具体的に同じにしている傾向があります。教育出版のほうは音符がたくさんあるとその分長くなるのですが、どちらがいいのか判断は難しいです。しかし、どちらかといえば教育芸術社のほうが見やすいと思います。

それと、これも決定的とは言えないのですが、教育出版社のタイトルが「音楽のおくりもの」と書いてあって、その英文として「The Present Song」と書いてあるんですね。この英語は明らかに誤りなので、今後英語をつけるのでしたら、きちんとした英語をつけたほうがいいと思います。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も音楽、一般は教育芸術社を推薦したいと思います。まず目次が楽曲、学習の目標、目標にかかわる主な窓口として、リズムや旋律などのマークがあり、工夫されていてわかりやすかったです。また、合唱曲の学習の目標も明確でした。それから指揮技術に関しては、皆さんおっしゃいましたけれども、段階的に扱っているところもとてもよいと思いました。また指揮については合唱コンクールの指揮者などに限らず、多くの生徒が興味・関心を持ち、取り組んでほしいと思いましたので評価しました。

それから「My Voice」として発声法がシリーズで扱われているところもいいと思いました。初めは自分だけの歌声をみんな持っている。そこで自分の歌声のよさを発見するために歌うのに適し

た呼吸と姿勢を身につけることが大切であると展開していました。呼吸の具体的なエクササイズを紹介したり、バランスのよい姿勢と悪い姿勢をイラストで紹介し、なぜよくないかを考えさせていました。そして次に曲に合った声を探すと進んでいました。なぜ発声法を学習することが大切なのか、何のためなのかを論理的に納得できるように説明しているところはとても大切なことだと思い、評価しました。

また音符や休符、記号については苦手意識を持つ生徒も少なくないと思いますが、巻末の「音楽の約束」にまとめられていて、学年を追うごとに種類をふやしていました。それから「覚えているかな？」では、ゲーム形式で既習の音符や休符、記号を確認し、次のページの「Play Rhythm」で、その音符や休符を使って、拍を指定してリズムをつくるという活動を取り上げ、こちらも学年を追うごとに扱う種類をふやしていました。

また創作についても、前の学習を生かして創作の観点や方法をわかりやすく示しながら、歌唱の活動と創作の活動を関連させた表現活動を進めていました。

また教育芸術社は、鑑賞について、特に1年生ではまず音楽を聞くことを最初に行っていました。聞くに際しての鑑賞のポイントも示してあり、まず十分に味わってから、次に作曲者と楽曲等について学ぶ、また名曲の生まれた国や風土、その時代の楽器の特徴や演奏方法などを学んでいく流れになっているところがとてもいいと思いました。

皆様のご意見が同じようですので、音楽、一般については教育芸術社を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは音楽、一般は教育芸術社を採択することといたします。

続いて音楽、器楽合奏についてに移ります。皆様のご意見をお伺いします。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 基本的に一緒に、やはり教育芸術社のほうがいいですね。教育芸術社の教科書にしたらいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。教育芸術社とのご意見を伺いました。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 私も教育芸術社がいいと思います。教科書に載っている演奏者の男女のバランスがいいということと、曲目が少し多いように思います。また運指表が丁寧で、弾き方のインストラクションも教育芸術社のほうがわかりやすいと思いました。この3点から器楽も教育芸術社がいいと思います。

ただし、先ほど言い忘れたのですが、音楽史年表が両方の教科書ともあるのですが、顔が出てくる作曲家が教育芸術社が35人もいます。しかし、こんなによく集めたという感じの35人の中に女性がゼロです。教育出版は写真に出ている人が5人しかいない中で女性がゼロです。たくさん、35人も集めたのになぜ女性作曲家を入れないのでしょうか。メンデルスゾーンのお姉さんのファニー・メンデルスゾーンもたくさん曲を残しています。当時は女性が自分で作曲し、職業として発表するということは常識的ではなかったもので、フェリックスの名前で出されました。今ではファニー・メンデルスゾーン作曲による曲集も出ています。そういうことを考えると、35人も集めてなぜ女性作曲家が出てこないのかということが、唯一教育芸術社に対しては残念なところではあります。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 中学校でやる楽器としては、アルトリコーダーというのが非常に大きい比重を占めると思います。小学校では普通のリコーダーをやりますが、それに少し難しいものとしてアルトリコーダーをやります。その演奏の説明が非常に丁寧でした。指はどこを押さえるというだけではなくて、口でどう吹くというような、横から見た顔の断面図などもかいてあって、そういうところは非常に親切だと思います。また、ギターの説明も非常に丁寧でした。

そして新しい学習指導要領で日本の伝統的な楽器ということで、琴、三味線、尺八、さらにはしの笛、太鼓とありまして、もちろんこれを全部演奏するというのはなかなか難しいと思います。楽器の種類にもよりますし、地域性というのもあると思います。国立市では琴と太鼓ということのを伺いましたので、琴の演奏に関しても完全に弾きこなせるとまではいきませんが、体験程度の演奏の指導というのにはなされていました。それと和楽器の場合には、五線譜であらわし切れませんので、数字であらわしてあるという琴の譜面というものも紹介されてあって、非常に丁寧だと思いました。また国立市では太鼓をやるということで、太鼓に関して非常に詳しく書いてあるのは教育芸術社ということで、これも国立市の採用する教科書としては適しているのではと思います。

そして最後に、和楽器と洋楽器でアンサンブルをやるということとして、「コンドルは飛んでいく」という、割と民俗音楽に近い曲も出ていたので、大変好感を持ちました。

以上、その演奏法が詳しいということと、国立市において実際に使う楽器ということに関して詳しいという、この2点で教育芸術社ということをお勧めいたします。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 簡単に申し上げますと、やはり楽器の演奏の教科書ですから、子どもたちが最もなじんでいる身近なリコーダーから始まっているというところで、私も教育芸術社でよろしいかと思えます。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も教育芸術社がいいと思いました。教育芸術社は、目次が楽器ごとに色分けされ、各ページにもその色分けが使われていて、とてもきれいでわかりやすいと思いました。また取り上げている楽器の数が多くても特徴の1つですが、この楽器が多いということは指導の選択にも幅ができ、またさまざまな楽器やその種類の構造を知ることによって、いろいろな楽器に興味や関心を持つきっかけになったり、音楽の表現や鑑賞の幅を広げることにもつながり、音楽文化についての理解を深める一助にもなるのではないかと思います。

それから各楽器の扱いについては、共通してまず演奏している写真があり、楽器の起源や歴史などを紹介する楽器ガイドがあり、そして構造、姿勢と構えをわかりやすく説明していました。また楽器によっては種類や音域、基本的な奏法などの説明があり、次に実際に演奏するという流れになっていて、統一された構成が非常にわかりやすいと思いました。また演奏時の写真や指遣いなどの写真も多く、イラストを含めて非常に丁寧に演奏に取り組みやすいのではと思いました。それからその楽器が活躍している曲を2～3曲紹介し、鑑賞できるようにしているのもいいと思いました。

またアルトリコーダーを例にとると、Lesson 1、2、3と、それぞれに練習曲が複数あって、

左手のみの演奏から右手を加え、さらに高音へと音域が広がり、レベルアップしていく構成になっていました。

それからさまざまな楽器を扱った後に、アンサンブルセミナーがあり、譜面どおりの演奏に加えて、曲想に合わせて表現やリズム伴奏を工夫したり、アレンジを楽しんだり、楽器の構成や音の重ね方をみんなで考え、工夫してみるという活動があつて、学習に発展性があると思いました。

各委員から教育芸術社を推薦していただきました。音楽、器楽合奏については教育芸術社を採択することによってよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは音楽、器楽合奏は教育芸術社を採択することといたします。

続いて美術について皆様のご意見をお願いします。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 美術については、開隆堂、光村図書、それから日本文教出版の3種類ということになります。その中で、私が最初に拝見したときに非常におもしろいと思ったのは、日本文教出版社でした。日本文教出版社は3冊に分かれていました。1年生のと2・3年生の上、2・3年生の下ということで、表紙を見ても1年生がゴッホの「夜のカフェ」というものですし、2・3年生の上は光琳の絵ですし、それから下は「サグラダファミリア」という絵で、教科書の表紙からして非常に鑑賞にたえる名作が載っているということがあります。

そしてその中も、比較的東西の名作をたくさん載せている。さらには生徒の作品も載っているわけですが、インパクトとしてはやはり名作が非常に目につきます。この3冊を見ることによって、日本並びに西欧の名作がかなりたくさん目にすることができるということで、見ていて大変楽しい3冊ということでした。

そして実際に現場の先生のご意見ということをお聞かせいただきましたが、やはりこの中で開隆堂の美術関係の教科書には大変工夫があるということがありました。と申しますのは実際はこの美術の教科書は、鑑賞プラス子どもの作品の制作ということが重要なことです。その際に開隆堂は1年生で割と基本的なことを押さえさせて、2年生から3年生で発展させる、2冊しかありませんので、その発展の仕方が非常にまとめて書いてあるということがありました。生徒の作品がテーマごとにかなりたくさん載っていて、そしてなおかつその作品のどこがよいかというところまで説明してあるというのが開隆堂の代表的な作品を載せる姿勢になっていて、それは生徒にとっては大変励みになることだということがあります。

さらにテーマを制作する過程が非常に詳しく、段階を追って書いてあります。動物をつくるときに動物のスケッチや写真などといったものを参考にしながら、最終的に立体的な作品としてつくっていくという過程で、制作過程が詳しく書いてあるところが、この開隆堂の教科書の使いよさだというお話を伺いまして、なるほど、そういう意味で教科書というのは単に見て楽しい、美しいというだけではなく、生徒が作品づくりをする際に参考になる、そういう教科書の必要があると教えていただきまして、そういうことで開隆堂の教科書を推薦いたします。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 米田委員と同じ意見ですが、補足しますと、私は最初は日本文教出版のほうがいい

と思った。ゴッホと光琳の絵や、内容もいいですし、これはすごいと思ったのです。それで見ていいなと思い、もう圧倒的にこれだと思っておりましたら、現場の先生からは開隆堂だと言われたので、先生の意見とこんなにも違うということにも驚きました。

先生の立場からするとやはり開隆堂で、中に出てくるのはいわゆる名作というものではなくて、今まで生徒がつくった犬であったり、それから針金細工であったり、スケートであったり、ペンギンであったり、現場で教える先生にしてみるとそれは非常に実用的でいいということを知り、なるほどと思って、私も先生のおっしゃるとおり開隆堂がいいと思いました。

ただし、日本文教出版のほうは、やはり世界のこういういいものを見て、これは本物を見にいきたいと思うわけですね。ですから画家になるとか専門家になるわけではなくて、中学生のときの美術に対する、自分のその後、これからこういう絵を見たいと思うこと。私の友人の南伸坊の世界の美術館という番組なのですが、中学生のときに見た教科書に載っている絵画を、全部現場に行ってみるとNHKの番組を昔やっていた。実物は自分が思っていたのよりとても大きかったり、あるいは大きいと思っていたのが小さい作品だったりという誤差を感じたとのことでした。そういうことを含めてこの日本文教出版の3冊というのは、私はいただいて持って帰って、もう一度なるほどと思うぐらいのすばらしい内容の教科書であると思います。

しかし、先ほども申したように現場の先生の意見を聞きますと、開隆堂のほうの実用的だと判断いたしました。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 去年小学校の採択で開隆堂を選んだのですけれども、そのときには開隆堂とほかの教科書を比べたとき、開隆堂のよさが飛び切りといいますか、非常に差があって、本当に子どもたちの活動、創作の意欲を引き出して、見るだけでもわくわくするような楽しい教科書で、開隆堂は美術、図画工作の教科書としては非常にすばらしいという印象を持っていたのです。

今回、中学校の教科書を見たときに、開隆堂は目次に非常に工夫がされていて、内容を色であらわしています。それはほかの出版社でもやっているのですが、その色別にすることが小さく少しではなくて、左のページ全体に、さらに真っすぐではなくてにじんでいるような上品な使い方で内容をあらわしています。それと小学校からの続きで創造する、自分でつくるということにいざなう工夫も続いていると思いました。

年表がほかの教科書と違ってアジアという項目が入っているところも、私は注目して、よかったと思ったのですが、年表で一番いいのは日本文教出版で、日本と西洋でいつの時代にどのような影響があり関係があったかということを示しています。年表は日本文教出版がいいなと思ったのでもう1回全体を見ると、表紙からもやはり日本文教出版かなと思いました。私は初め開隆堂はほかよりよく、小学校のときほどの差ではないのですけれどもやはり開隆堂と思い、しかし年表で少し心が動いて日本文教出版かなと迷ったのですが、先生方の報告書を読んで、子どもたちの創作を具体的に指導する立場からすると、やはり開隆堂であると思いました。ですので、開隆堂がいいのではないかと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 3社の教科書、いずれも甲乙つけがたくよくできていると思います。特に光村図

書は、最初開いて「風神雷神図」が出ているのにはびっくりしました。すごいものが載っているという感じがしました。それから日本文教出版については、既に各委員がおっしゃるとおりで、表紙に非常にインパクトがあって、それから本文中のレイアウトも大変よくて、これぞ美術のテキストというイメージが全面に出ているという感じの教科書でした。光村図書と日本文教出版については、色見本がとじ込みになっていまして、それを開くと各ページの色を見比べることができるという工夫もありました。

それから開隆堂につきましては、やはりどちらかというと鑑賞よりも創作、制作にかなり力を入れるという教科書づくりで、その面での掲載資料の数が多く、バラエティに富んでいるということや、あるいは子どものワークシート等を載せて、実際に制作の指導がしやすいような教科書づくりをしているというところがありました。

どれにするかと迷ったのですが、また今回は非常に不思議に思ったのが、光村図書と日本文教出版については2・3年生の教科書を上下に分けていることです。このつくり方は先ほどの音楽の一般のところでも教育芸術社と教育出版がともに2・3年生にして、上下に分けているのですが、どうもこの分け方に何か私は違和感がありまして、であるのならば2・3年生一本で、1つの教科書にしてしまったほうが合理的ではないかと思いました。そういった意味では開隆堂が2・3年生一本で、そしてもう1冊の教科書というようにまとめているので、開隆堂でよろしいのではないかと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私の感想を申し上げます。私も開隆堂がいいと思いました。開隆堂は扱っている作品数がとても多く、特に生徒作品や生徒の活動の様子を多く扱っていました。また美術作品、生徒作品ともに作品の解説や作者の言葉が多く紹介されていました。

特に生徒作品については、生徒が創作するに当たり、発想のヒントや制作過程、また工夫した点が参考になるのではと思いました。

また鑑賞についてですが、開隆堂の鑑賞教材は3ページにわたる迫力のあるものや、実寸大のもの、それから部分的に拡大したものなど、さまざまあってインパクトがあり、国宝や重要文化財も紹介されていました。

また鑑賞の視点が色枠で示してあり、わかりやすく、美術作品や生徒作品と合わせて鑑賞を深める手だてにもなり、さらに表現へと結びつけていくことで学習に広がりが出ると思いました。

それから表現の手順や技法、基礎的な知識が枠で囲んであり、使いやすいと思いました。

また巻末にある「道具箱」でも、制作に使用するいろいろな道具の種類や使い方をまとめてあり、安全への配慮も見られました。

それから伝統工芸を扱うところでは、作品とともに職人の制作風景やコメントなどもあり、伝統工芸を身近なものとしてとらえる工夫が見られました。

皆さんのご意見を伺いました。日本文教出版の教科書に引かれつつも、中学校の教科書としては開隆堂がいいというご意見でした。

それでは美術については開隆堂を採択することによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは美術は開隆堂を採択することといたします。

続いて保健体育についてご意見を伺います。

中村委員、お願いします。

○【中村委員】 保健体育は、学研教育みらいを小学校でも採択しましたが、中学校でも学研教育みらいがいいのではないかと思います。ほかの教科書に比べて健康についての叙述がやはり一步踏み込んでいるという感じがしました。口絵もすべて健康のトピックで占められています。小学校の教科書採択のときには、喫煙で真っ黒になった肺の写真を載せていて、それが他社にないことでした。それもインパクトが強かったのですが、今度の学研教育みらいでは、喫煙による肺胞の空洞化の写真を一步踏み込んで使っている、つまり小学校と中学校ではやはり発達に応じて、よりインパクトの大きいものを使っています。一方、そのほかの大日本図書、大修館と東京書籍は、学研教育みらいが小学校で使っていた肺が真っ黒になりますという写真を使っているという点で、私は学研教育みらいが、この点に関してはやはりほかより抜きん出ていいと思います。

それだけではなく、シックハウス症候群というのをコラムに取り上げているのも、学研教育みらいだけです。それに関連して「化学物質と健康」というコラムもあって、そこで環境ホルモンのことを取り上げていました。

環境ホルモンについては、大日本図書でもトピックスで触れてはいるのですが、化学物質に関する配慮や注意を喚起するという点で、学研教育みらいがよかったと思います。

また、各社とも熱中症について、非常によく取り上げているということに気がついたのですが、おそらくそれは去年の暑さが影響していると思います。

もう1つ興味深かったのは、中学生の事故で一番多いのが自転車に乗っているときだということで、それを各社とも書いていました。その点で一番強い印象を与える書き方をしていたのは、自転車も加害者になるのだということと、自転車安全利用五則というのを出していた東京書籍であったと思います。

国立市では、大学通りの歩道に小学生と70歳以上の人だけが自転車走行できるという看板が立っています。小学生までは歩道を自転車で通ってもいいのですけれど、中学生になったら、絶対、70歳になるまで歩道は走れないのだということを、中学校の先生がぜひきちんと教えていただきたいと思っています。

やはり私は、学研教育みらいがいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では米田委員、お願いします。

○【米田委員】 私も学研教育みらいを推薦いたします。保健体育の教科書は保健編と体育編という大きく2つに分かれていまして、学研教育みらいは保健編を一番トップに持ってきています。

この学研教育みらいの非常にうまい工夫というのは、一番最初の思春期の子どもたち、その思春期の問題を非常にうまく教科書で扱っているというところにあります。性の悩みなどのことも含めて、Q&Aという形で、ほかの人にはなかなか聞けないけれども知りたいことをまとめて、非常にうまく生徒が理解しやすいように載せているところは大変いいと思いました。

さらに健康ということ、環境というところで環境、空気、水、下水、ごみなどという現代的な問題も扱っていました。

また傷害の防止というところでは、人的な要因と環境的な要因があるのですということで、交通事故のこと、それから自然災害、津波の注意などもここで取り上げています。そして今、中村委員がおっしゃった熱中症の手当てということが図解されていて、非常に詳しいというところがあります。

さらに健康な生活と病気の予防というところでは、中学生にとっては非常に困る問題としてたばこ、

それからお酒、薬物、さらに性的感染症という非常に難しい病気もありますが、それについての予防ということについても非常に詳しく、例えばたばこについてはがんは何%ぐらいなる可能性があるというようなことをイラストで取り上げていたり、小学校のときの喫煙ということは非常に体によくないということを表であらわしているというような、一歩進んだ扱い方をしているところがいいと思いました。

それからコラムが幾つかあるわけですが、それは非常に現代的なテーマを特に扱っていて、シックハウスとか低炭素社会をどうつくるか、AEDやPTSDというようなこと、それからメタボリックシンドローム、エイズのこと、HIVのこと、そういう現代的テーマを積極的にコラムという形で、子どもたちが自主的に読むということで、現代の健康に関してはこういうさまざまな問題があるのですということをはっきりと示しているというところが非常にいい工夫であり、このコラムの充実はいい工夫であると思いました。

体育編に関しては、健康、スポーツの多様性とか、スポーツの効果と安全、それから文化としてのスポーツということで、特に国立市でやっている武道やダンスなどに対して具体的に書いてあります。この体育編に関しては、やはり教科書を持って校庭や体育館で具体的にすることではなく、子どもたちが自主的に読んでいく部分だと思いますが、それほど詳しくはありませんでした。

この教科書の特徴としては、子どもたちの学びということを考えて、学びのヒント、それをどうやって学んでいくかなど、自分でどう観察して実験するか、また資料を集めるためにインタビューが必要であることなども含めて、課題学習的な考え方をきちっと示しているというところがやはりいいと思います。

それとほかの会社でいいますと、大日本図書に関しては体育編が一番最初に出てきて、非常に体育編が詳しくなっています。そして体力の向上のみならずスポーツを文化として取り上げ、オリンピックに対しての記述が詳しいということでは体育編については、大日本図書はかなり頑張っているということがあります。しかし、基本的には保健体育は教科書で勉強するもので、やはり保健編が中心になると思いますので、その保健編の記述が詳しい、しかも非常に微妙な問題、思春期の問題をとともうまく取り扱っている学研教育みらいがいいと思いますので、推薦させていただきます。

以上です。

○【佐藤委員長】 では是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 私も米田委員のおっしゃったとおりで、学研教育みらいがいいと思います。構成もよく、内容もポイントを突いてわかりやすくできております。子どもたちが何よりもこの教科書を事典や医学書がわりとして、常備書籍として使えるというよさがあるだろうと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかにご意見はよろしいでしょうか。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 私も学研教育みらいです。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も学研教育みらいがいいと思います。学研教育みらいは発達段階に応じた内容で、記述もわかりやすいと思いました。また小単元に学習の目当てが明示されていて、生徒たちが学習に取り組みやすいと思いました。また自分の生活を振り返るチェックや、これまでの体験を振り返ったり、考えたり、話し合ったりする課題の提示も多く、学習した用語を確認したり、知識の活用をチェックしたり、また学習をどのように自分の生活に生かしていくかを、文章で表現する活動も織り込まれていました。

先ほどコラムの充実についてはお話が出ましたが、中学生に多い犯罪被害、手当てをする人の感染防止、形や名前を変えて近づく薬物など、中学生にとって非常に身近なものが扱われていたと思います。

また資料もとても豊富で、中には持久力を高めるための運動の仕方の例や、欲求不満が起こったときに見られる行動の例、それから中学校での傷害、中学生の時期の食生活で気をつけたいことなど、内容が具体的で中学生が参考になるものも多かったと思います。

また適応の限界性、傷害の防止、医薬品を正しく使用することなどについても、具体例を挙げながら考えさせる記述が目立ちました。

はい、中村委員、どうぞ。

○【中村委員】 先ほど言い忘れたのですが、こんなに総合的によい学研教育みらいであるからこそ、やはり少し一言申し上げたいのはジェンダーの問題です。そのことで一番残念なのが学研教育みらいでした。例えば地震のときには机の下に潜るということが書いてあります。学研教育みらいの挿絵では、机の下に潜った女の子が怖がって、震えています。東京書籍では中学生ぐらいの女の子と小さい男の子が2人で怖がっています。大日本図書では、男の子と女の子が机の下に潜っています。不安そうですが、怖がってはいない様子です。大修館では、緊急地震速報を聞いてから、机の下に落ちついて男の子が入って行って全然怖がりません。このように4つを並べてみると、地震の場面でどんなイラストを載せるか、女の子が机の下で震えているというのはどうなのだろうか、私は疑問を持ちます。

そして、もう1つ、各社共通して地震のときに火の始末をしているのがみんな女性です。なぜなのでしょう。東京書籍では、ストーブの火をとめています。ほかは全部台所で、もちろん女性が火の近くにいることが多いということがありますが、これだけそろわれると、火の始末は女性の仕事と言われているような気がします。

さらに学研教育みらいについてもう1つ、悩んでいるところ、傷ついている女の子が2回涙を見せています。そういうところはほかの教科書にはなかったです。ということで、先ほど述べた理由で総合的には学研教育みらいがいいと思いますが、ジェンダー的な観点からいうと非常に残念だったのも学研教育みらいでした。

以上です。

○【嵐山委員】 火は男の子が消して、女の子を先に逃がすというほうがいいのですよね。

○【中村委員】 ですからそういうことも含めて、4社全部女の子、あるいは女性が火を消していると、すべてを並べてみると、何だろうかということです。

○【佐藤委員長】 保健体育について、皆様のご意見を伺ってきました。

では採択に入りたいと思います。保健体育については、学研教育みらいを採択することでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 保健体育は学研教育みらいを採択することといたします。

続いて技術・家庭に移ります。技術分野について皆様のご意見をお願いします。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 先ほど美術と関連するのですけれども、私はいろいろ見て、教育図書がいいと思ったのです。教育図書は、非常に具体的で、例えば栽培についても細かく書いていますし、それからお

いしそうな料理がいっぱい載っています。

○【佐藤委員長】 それは家庭科ですね。

○【米田委員】 技術からです。

○【嵐山委員】 技術は、東京書籍がいいと思います。

文字が少し小さいという感じはしたのですけれど、いい印象を持ちました。先生の意見のまとめも東京書籍です。それで改めて読み直してみると、なるほど、現場の先生はこれは使いやすい、開いた時の見やすさと、それから課題を追って教えているということですね。そして非常に具体的ですので、自主学习しやすい。さらに單元ごとに目標を設定していて、工具の使い方については、写真を多く使って、わかりやすくしていると感じました。

○【佐藤委員長】 技術分野は東京書籍というご意見でした。ほかの委員はいかがでしょうか。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 技術というのはもともとどういうことを目標にして、その教科があるのかということ考えたときに、子どもたちにとって興味のある教科書は何であるかというものを選ぶことが必要だと私は思いました。

先生方の評価としては、まず教育図書、これも非常に高い評価でした。この会社は今までは副読本といいますか、資料集を出版していた会社ということで、非常に資料が豊富であるというところ、さらにこの技術の内容としては材料と加工、エネルギーの転換、生物育成、それから情報と4つの柱があるわけですが、その際の木材の加工に関しては非常に技術的な細かい部分を写真で示すということで、非常にわかりやすいという推薦が先生方からありました。

それと生物の育成ということに関しても、野菜、花だけではなくに、家畜である牛、さらには養鶏について非常に詳しいというご紹介がありました。

そういうご紹介をいただいたのですが、私が技術の教科書を拝見して、やはり子どもが興味を持ちやすい、そして写真や絵とかの説明が詳しい、そしてどうしてそういうものをつくるのかという動機づけが本当に丁寧に行われているということでは東京書籍が、そういう意味では楽しい教科書といえますか、興味の持てる教科書であると思いました。実習の安全性などのことも一番最初に出ておりますし、けがの手当てなどもきちんと書いてあります。

さらには最初の「材料と加工」というところでも、木材のものだけではなくに金属製のものや、プラスチックでつくるものなど、そういうことで作成作品の数がかなり多いということなど、作品をつくる際の手順というものも設計をし、さらに製作をし、それにその後の評価を受けるということの手順も非常に手厚いと思いました。

基礎・基本の技能ということに関しても、木材の切断、それからのこぎりや曲線びき、切り抜き、かなり専門的なことにも触れてあります。またやすりがけ、穴あけといった基礎技能に関しても一応は触れているということがありました。そして最後に学習のまとめということで、その章の単元の大事なところをまとめているということで、子どもの動機づけ、内容の手順、さらにはまとめという流れが非常にしっかりしていたと思います。

またエネルギーの転換ということに関して、現在、問題になっているエネルギーのことにも触れているわけですが、教育図書の場合には原子力発電に関して、使い終わった燃料を再利用できるというように書いてありまして、これについてはまだ完成していないことで、プルサーマル計画のことをいっているのかもしれませんが、こういうように燃料を再利用できると明記するのは少し問題であると

思います。

生物育成に関しては、教育図書の場合には養鶏、魚の養殖にも触れてありますが、それから選ぶということもありますが、そういうことに関して実際に実験でやる、実習でやるということはなかなかないと思いますので、家畜や乳牛だけでという欠点もそれほど大きいものではないのではないかと思います。そのかわり野菜や花などの実習例はかなりたくさん充実していると思いました。

それと情報に関してのコンピュータについてのさまざまな詳しい仕組みがあります。それから情報のモラルの問題という点も平均しており、東京書籍は基本的なところはきちんと押さえていると思いました。

そういうことで、子どもが興味を持って自分でも読める、そして、その教科に関して興味・関心を持てる工夫と、さらにまとめのきちんとしたやり方という点を考えると、東京書籍の教科書は、教科書としてかなり完成度が高い教科書であると思います。

以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では中村委員、お願いします。

○【中村委員】 私は東京書籍の技術分野の教科書は、何となく私が感じている東京書籍の悪い点というのを幾つかあらわしているのではないかと思ったのです。例えば鉄腕アトムのキャラクターを使っていることです。鉄腕アトムがあるから中学生が喜ぶのではとか、私たちの若いころでしたら鉄腕アトムが好きだったかもしれませんが、再放送があるにせよ、何かそういうポップな色遣いなどで子どもにアピールしたいような感じを、この東京書籍の教科書からは受けて、中学生の教科書の編集方針としてはどうなのかという疑問を持ちました。

学習内容を明確に示して、目標やチェック、リンクやまとめなど、そういう出し方はさすが東京書籍といえますか、工夫がありますし、写真やイラストの点数も多く、ビジュアルに力を入れているという感じを受けます。しかし、やはり画面といえますか、見た感じが私には少しいる感じがしますし、たくさんの項目を本当に生徒が生かし切れるのだろうかと思います。もちろんそこでは先生たちの力量が重要になってくると思います。

その一方で、今のように思ったものですから、教育図書は紙面のつくりが非常にシンプルであるところに好感を持ちました。飾り気がなくてシンプルで、教科書というよりは何か説明書といえますか、よくできたマニュアルという感じを受けます。参照するのにはとてもよい。例えば「材料と加工」に関するところでは、作業の手順など、実際の作業の様子の写真、それも手元の写真を何枚も撮って、非常に参照しやすいです。私はこの手元をアップにした写真に非常に好感を持ち、作業をしながらでも参照するのにいいのではと思ったのです。ただし、先ほど米田委員もおっしゃったように、原子力発電の長所に、使い終わった燃料を再利用できるとあります。もちろん短所としては放射能や放射性物質の管理が必要であり、事故が起きたときの影響が大きいとも書いてあるのですが、使用済み核燃料をきちんと安全に保管するだけでも大変なことで、今回の福島原発の事故でも、使用済み核燃料が貯蔵されていたところも発熱してしまって本当に危険だということを考えると、使い終わった燃料を再利用できるということを長所として書いてあるのは認識としては少しおかしいと思います。

結論としては、私は少し揺れていて、すっかりしているという意味で教育図書はよかったと思ったのですが、この原発のところでがっかりしました。

それで東京書籍は教科書としてはいいかもしれないけれども私があまり好きではない、ごちゃごち

や感があるのです。ですので皆さんの意見を聞いて少し考えようと思っています。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 技術分野で最近はやはり情報技術というのもしっかり扱っていかなければいけないということになっています。パソコン操作等、技術の専科の先生がパソコンルームでしっかり子どもたちに基礎を教えていくということが必要になってくるわけですが、そういった意味では情報技術についての教科書という点でもしっかり見なくてはいけないということになります。

審議会の専門調査委員会の評価では教育図書が一番高かったように感じるのですが、こと情報技術に関しては基礎、実用の取り扱いの説明がほとんどないまま、いきなり創作段階に入っているということで、ある程度子どもたちがパソコン操作になれているということ踏まえているようだけれども、確かに子どもたちの中にはパソコンの操作に秀でている子どもたちもたくさんいますけれども、これから初めてパソコンを使っていくという子どもたちもまだ多いと思います。そういった意味では情報技術について、やはり最初の基礎・基本をしっかり教えていくという教科書が望ましいのではないかと思います。

そういった意味では東京書籍、もしくは開隆堂の教科書のほうがいいのではないかと思います。以上です。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私は最終的に東京書籍を推薦したいと思います。教育図書は確かにものづくりなど、製作を扱う事例がとて多く、製作の工程を大きな写真や図、表などを多用してわかりやすく示しているのが特徴の1つで、とても目新しさを感じましたし、魅力を感じました。

最終的に東京書籍を選んだ理由を幾つか申し上げます。東京書籍は技術分野で学習することなどを紹介するガイダンス的な内容が充実していました。また、ものづくりなどの実践的、体験的な活動例は教育図書に比べると多くはありませんでしたが、工程表を使って製作全体の流れを示したり、基礎技能として実習に必要な作業や注意点などがまとめられていて、特に安全への配慮には絵マークもあり、徹底されていたと思います。

それから完成した製作品を評価することを取り上げていたことも、東京書籍の特徴だと思います。レポートとしてまとめ、生活に活用していくという取り組みは、技術を活用した製作を通して、技術を適切に評価し、活用できる力を育てることにつながると思います。さらに製品を選択するときの評価、活用にも生かされていました。

それからエネルギーの変換では、導入に新幹線の例を挙げ、身の回りの機器も多数取り上げていました。機器の保守点検では、実習例に自転車を扱っていて、各パーツの点検についても説明があり、生徒にとって実習として取り組みやすいと思いましたが、ぜひ自転車の安全管理を意識してほしいと思います。また、キャビネット図なども方眼紙を使ってわかりやすく説明していました。

それからより深く学ぶでは、米田委員もおっしゃいましたが、「技術のとびら」が非常に興味深いと思いましたが、木材や金属材料、プラスチック、新しい素材など特徴や用途例を詳しく紹介して、興味・関心を高める工夫があつておもしろいと思いました。

皆様のご意見を伺いました。

中村委員、どうぞ。

○【中村委員】 まだ少し迷っているのですが、先ほどの原子力について言うと、東京書籍で少し疑

間を持ってしまうのは、「最新の技術を見てみよう」というところの5つあるうちの1つにプルサーマル発電を挙げていることです。その一方で、先ほどから申し上げているジェンダー的な観点からいいますと、この3冊の中では東京書籍が一番いいです。多分これは意識してそうしていると思いますが、工事現場に女性が働いているイラストや、工場の写真でも男女ともに工員の方が一緒に働いている。それから技術を教室で学んでいるところの写真や挿絵は、大体男女一緒に作業をしています。自動車のブレーキ点検をしている女性や、クレーンを運転している女性、コンピュータでアニメ制作をしている女性が登場し、さまざまな技術者を訪ねようというところでは、男性6人、女性2人なのですけれども、その1人はフラワーアレンジメントをしている女性、もう1人が左官をしている女性です。そういうことから言うと、昔は技術は男の子、家庭は女の子というように分かれていたけれども、技術も男の子と女の子が両方一緒に学ぶものである、そしてこれまでは男性だけだったような職場にも女性がどんどん進出していることを教科書に反映しているという点では、私は東京書籍が一番評価できると思います。

その点、開隆堂は、「技術分野を学んでいく」というところで、中学生ぐらいの男の子が大きくなって白衣をつけた先端技術を担う男性になっています。技術を学ぶのは男性だけではないという気がやはりします。

それから教育図書なのですが、挿絵で工作の作業中の全体像では、つくる場面では男の子が多くて、植物を育てるところは女の子が多いです。先ほど申し上げた手元がよく写っている写真は、手元だけを写すと男性か女性かわからないのでそれもいいと思いますが、全体を見たところではジェンダーに対する配慮は教育図書よりも東京書籍がいいと思っています。

総合的に考えますと、現場の先生が教育図書の資料的、マニュアル的なところを評価されたと受けとめたのですが、これだけジェンダーのところを話すと、やはり東京書籍かなと思います。

○【佐藤委員長】 各社の教科書についてさまざまなご意見をいただきました。審議会からは東京書籍、教育図書、開隆堂ともに、生徒にとっての学習のしやすさと指導する側の視点からすぐれているところ、また課題と思われるところ、その両面についての報告をいただきました。

各委員東京書籍ということに落ちついたようですので、技術・家庭の技術分野については東京書籍を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは技術・家庭、技術分野は東京書籍を採択することといたします。

続いて技術・家庭、家庭分野についてに移ります。皆様のご意見をお願いします。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 先ほど、技術のところで言いましたけれども、教育図書がいいと思います。

○【佐藤委員長】 ほかにご意見はいかがでしょうか。

中村委員。

○【中村委員】 私も家庭科は教育図書がいいと思います。幾つか工夫がありまして、まず初めのところで書き込み式で「小学生のころのわたし」など、中学1、2、3年生の目標を書くようになっていきます。そして中学生になってできるようになったことや、これからはどんな私になりたいかということで、自分の生き方と家庭科の学習を最初に結びつけているところがとてもいいと思います。

それから本文の書き方ですが、まず家族のことを扱ったところでは、本文で家族と核家族、大家族、三世代家族、高齢化というところが太字になっていて、その言葉を欄外にもう1回出してチェッ

クする、「キーワードチェック」の欄を設けています。

「子どもの権利条約」については、公民のところでも申し上げたのですが、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利をきちんと挙げた上で、このキャラクターが「この条約は、18歳になっていないすべての子どもが対象。中学生も含まれるんだね」としっかり言っていることもとてもいいと思います。

またレシピが幾つかありますが、それほど長い時間をかけないでできるものという観点でいうと、教育図書がいいと思いました。

もう2つあるのですけれども、やはり先ほど言ったチェック項目ということに関連するのですが、最後のほうで「自立していますか？あなたの食生活」、「自立していますか？あなたの衣生活」、「自立していますか？あなたの住生活」ということで、生活をさまざまな場面での自立ということを課題にして、自立を促すということが丁寧であると思うのと、子どもの発達の筋道といいますか、幼児の心身の発達、その個人差ということ、言葉や遊び、言葉や考える力の発達と遊びについて非常によく書いてあることなどが特徴だと思いました。

最後になりますが、伝統的な食文化を出している点では、東京書籍と開隆堂、教育図書も同じなのですが、教育図書には「日本全国のお雑煮マップ」というのが載っていて、丸もちなのか角もちなのか、焼くのか煮るのかということで、非常にきれいな分析的な地図ができていて、これは私も見て「おっ」と思いました。これは生徒にも強いインパクトがあって、家族でも話題にできて、非常におもしろいと思いました。

以上の理由で、私は家庭科は教育図書がいいです。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ほかの委員の方、いかがでしょうか。

是松教育長。

○【是松教育長】 調査研究部会から、それから審議会の報告をいただいた中で、技術・家庭は技術分野も家庭分野も教育図書の評価が比較的高かったと思われま。

この教育図書は米田委員もおっしゃられたように新しく教科書検定を受けられた検定本で、これまでは教科書分野には参入していなかったのですが、今回から入ってきたということで、非常に意欲的にやっている半面、非常に冒険的な教科書づくりもやっているということで、先ほどの技術の面ではというところが非常に見受けられて、少し危うさを感じて、私は従来からの東京書籍、開隆堂の教科書のほうがいいとしたのですが、こと家庭分野においては、やはりもともとが資料集をつくっていたという会社だけに、非常に豊富な資料が入っているということで、逆に言うとこれだけの資料があれば、確かに今度は資料集はなくて、この教科書だけでやれるのではないかというような気もします。

そういった意味では、この教科書会社のチャレンジ精神というところで、この家庭分野については教育図書を採用していいのではないかと思っています。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 家庭科に関しては、どういう観点かといいますと、やはり衣食住に関して、自立した生活ができることです。そして人間関係、消費生活に関してということで、大変社会人として成長していくのに大事な教科だと思えます。

今、教育図書というお話が出ましたが、教育図書の編集としては最初に家族から入っています。家族の大切さ、自分が育ってきた状況を振り返るということで、家族から入って、その後育児になって、

さらに衣食住、そして消費生活となっています。家族、育児から入るところが大変この教科書の方針としては好感が持てる場所であると思います。

育児に関しても、子どもが喜ぶようなおもちゃをつくってあげようなど、非常にきめの細かいところがありまして、それはほかの教科書にはないきめの細かさだったように思います。

さらに衣食住の食に関しては、学校で実習がなされるわけですが、50分で作る料理が前後の時間を考えると理想的だということを先生たちおっしゃっていらして、東京書籍ですとそれがもう少し長く70分というものもたくさんあったので、そういう意味では料理の実習としても使い勝手がいいだろうと思いました。

さらに最後の消費者生活というところでは、消費者のトラブルや消費者の権利、これが非常に詳しく記述されていました。最後の編著者のところを見ると、弁護士の方が加わっていらっしゃるということで、さすがはそういうところの専門家の協力を得ていると、消費者のことに關しては、ほかの教科書に比較して大変詳しいと思いました。

一見、読みたいな、おもしろいなという作りではないのですが、また表紙も3年間使うには少し弱いのではないかと欠点もあるのですが、やはり現場での使い勝手がいいということと、編集の基本的な方針がきちんとしているということも含めて、教育図書を推薦させていただきます。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も教育図書を推薦したいと思います。理由を幾つか申し上げます。教育図書は、今までの生活を振り返り、自分や生活を見つめることから学習を始め、これからの生活や自分を考えるというスタンスが貫かれているところがいいと思いました。

また構成としては、章の初めに学習内容に関連した問題やチェック項目などがあり、これから学習することのポイントをわかりやすく示してありました。また一つ一つの節がクエスチョンで始まっていて、生徒が考えたり人に聞いたり思い出したり話し合ったりする課題を与え、問題意識を持たせたところで単元のねらいへとアプローチしているところもいいと思いました。

また調理実習では、手順のほかにも調理中につまずきそうなポイントや調理のコツなど示されていて、スムーズに作業が進められるような工夫がありました。また調理中の危険について扱っているページも、十分参考になると思いました。

それから食生活を例にとると、よくない食習慣の主な例と、その影響を扱っていて、2つのコショク（個食、孤食）がどのような問題を起こしやすいかを考えさせたりなど、学習に具体性があり、実生活に即していると思いました。

また生鮮食品や加工食品の表示例も実物のラベルの写真を使っていました。そして献立を考える学習でも、食材で季節が見えてくるとか、「鱈」や「鱈」の漢字を見て「季節を感じるね」のせりふが吹き出しにあり、日々の生活の中にも四季を感じる豊かな感性を大切にしてほしいと思いました。

また布を使った製作実習例では、すべての作品にアレンジ方法が載っていて、生徒は創意工夫して取り組むことができるのではと思います。

それから米田委員のお話にも出ましたが、これからは消費者教育、また環境教育、そして幼児の生活への理解など、ますます必要になってくると思います。教育図書はいずれも質、量ともに充実していたと思います。

皆様のご意見は教育図書ということですが、いかがでしょうか、技術・家庭、家庭分野については教育図書を採択することによってよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 では、技術・家庭、家庭分野については教育図書を採択することといたします。
続いて外国語、英語について皆様のご意見をお願いします。

嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 いろいろあるのですが、光村図書の「COLUMBUS」がいいと思いました。光村図書の構成は、話が設定されていて、会話が多く、会話が中心となっている。英語の初心者にとっては非常に入りやすい、楽しく入りやすいと思います。登場人物の主人公が日本人のタクという子で、そこにアメリカからティナという黒人の女の子が入ってきて、そしてクラスメートに韓国のミンホが来て、ほかにも先生など何かいます。全員で12人いるのですが、きちんと男女6人ずつになっている。中村委員の意見がここにも届いているのではないかという気もしますが、アメリカの黒人の女性と韓国人の男性と2人入っているという配慮を、人権や男女というのを結構意識しているのであろうと思います。そして読んでいくと楽しくて、このティナとタクを中心としながら、学校などの中や、音楽をやったりいろいろ会話が進んでいきます。

また、英語は小学校のときからやっていますけれども、最初、特に1年生にとっては入りやすいという感じがして、工夫しているという感じがします。すぐ使える英単語で「What time」なども入っていて、これは楽しくていいのではないかと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。嵐山委員からは光村図書を推薦していただきました。

米田委員、お願いします。

○【米田委員】 私も光村図書の教科書が非常に斬新で意欲的な教科書だと思いました。今の教科書は基本的にはコミュニケーション能力をつけるということで話す、聞くというところに重点が置かれて、さらに書く、読むというようになると思うのですが、先ほど嵐山委員から紹介がありましたクラスメートの会話から始まって、そしてその子たちが3年生まで成長していく姿を3年間で追っていくというおもしろい筋仕立てになっています。物語を会話でたどるということで、ユニットというのをつくっていきまして、そしてそれをたどったところで、文法的なまとめということもしっかりやっています。また慣用表現がかなりまとまってついているので、会話の際に慣用的な表現を覚えているということは大事なことであり、それも非常に使いやすいと思います。

それと自分の考える設問ということがありまして、やはり英語でも思考力ということ育てるといふ工夫があると思います。

2年生になると自己紹介のスピーチや書くということが比較的弱くなっている傾向がありますが、日記や手紙、さらにはメールということで、書くという作業も2年生から入れているというところがあります。

そして3年生になると読む力ということに非常に力を入れまして、多様な分野の文章が載っております。谷川俊太郎の詩から始まりまして、新聞記事、また杉原千畝さんの問題、さらにCO₂の削減についてでありますところなど、読むという、しかも割と最近書かれた文章を、そして生徒が興味を持つような文章を載せることによって読むという力をつけさせようというところが、大変工夫がある教科書であると思います。

どの教科書も会話が中心になっておりますが、現在、国立市で使っております東京書籍の「HORIZONN」の場合には、やはり会話を進めて、そして読む、書くというところに移っていくわけですが、特に読むというものの題材が少し古い題材であって、今の子どもには少し興味をそがれるよう

な文章を読む教材が多いではないかということで、少しマイナスの評価になってしまいます。

以上、光村図書は英語の教科書としては最近の参入ですが、そういう意味でも非常に意欲的な編集になっていると思いますので、光村図書を推薦いたしたいと思います。

以上です。

○【佐藤委員長】 では中村委員、お願いします。

○【中村委員】 私も光村図書がいいと思います。どの教科書も登場人物は中学生、日本の教室を舞台として、日本人の中学生がいて、留学生として来たりする形で、イギリスとアメリカとカナダ、それからオーストラリアとインドなどさまざまなところから、外国の子どもが来て一緒に学んでいく、そしてその母国を訪ねたり、一緒に旅行したりという形で視野も広げたりしながら話が展開していくというところは共通だと思いますし、それから特に1年生から会話を中心に進めていくということも共通していると思います。

その中で、この光村図書のテキストが特徴的なのは、この4人が本当に一緒に成長していくということが3年間を通じて描かれているところです。バンドを結成したり、けんかしたりしながら、その中でタクという男の子がさまざまな出会いから積極的な男の子になっていきます。この主人公が3年を通じて成長していくというところ、一貫性がストーリーとして一番つながっているのが光村図書だと思います。

先ほど米田委員が言ったように、会話から、そしてEメールを書いたり、日記を書いたり、手紙を書いたり、スピーチの原稿を書いたりということを通じて、だんだんと文章を読んだり書いたりして文章の量がふえていって、2年生の中間ごろでは結構20行、30行ぐらいの文章もあって、3年生では読むほうもかなりしっかり取り組んでいると思います。先ほど国語で光村図書を採択しましたけれども、1年生の教科書では国語とも少し連動していて、「おれはかまきり」という工藤直子さんの詩を光村図書の国語の教科書で使っていますが、英語の教科書も一番最初はその「おれはかまきり」を英語で訳したものと日本語が書いてあります。各学年で、3年生は谷川俊太郎さんの詩であることなども非常にインパクトのあることだと思います。

もう1つ、私の中学生のときとすごく変わったなと思ったのは、歌がたくさん入っていることです。しかも昔の英語の歌とかではなくて、本当に新しいマイケル・ジャクソンやシンディ・ローパーなどの歌も入っていて、たくさんの歌手が取り上げられています。その歌の扱い方については随分各社により特徴があって、光村図書は英語の歌詞を出して対訳を丁寧に出しています。教育出版は対訳がなく楽譜があります。三省堂も楽譜がついていて、学校図書もそうですね。開隆堂は英語の歌が対訳つきで、出版社としては工夫をされていると思いますが、「過去形に下線を引きなさい」などと、文法的課題をその歌に対して出しています。もちろんやらなくてもいいのですが、例えば「どんな気持ちでこんなことを言っているのか読み取りましょう」などと国語のような課題を出していたりなど、こういうつまらないことはしないほうがいいのではないかと思います。

一方で、開隆堂でおもしろいと思ったところは、「チャレンジ」というコーナーで、「英語で理科」は科学のさまざまなクイズを英語で書いたり、「英語で数学」「英語で料理」というところでは英語で日常のことを少しやってみようと呼び、英語ではこのように言うのかがわかるという工夫がされていると思います。

東京書籍は英語の歌詞があって、対訳もなく、楽譜もないですが、少し詳しい解説がついています。それぞれ各社特徴があると思います。

もう1つ、光村図書で印象的だった教材があつて、それは1992年の地球サミットで環境について訴えた当時12歳のSevern Cullis - Suzukiさんという日系カナダ人の少女のスピーチがほぼ全文載っているのです。これは自分たちとほぼ同じ年の12歳の少女が、とてもプレーンな、わかりやすい英語で、「もし直し方を知らないのだったら壊さないでください」と訴えていて、この文章は中学生には読んでわかるし、インパクトもあると思いました。このSevernさんについては、実は光村図書だけではなくて開隆堂でも扱っているのです。それは2008年のSevernさんが30歳ぐらいの大人の女性になっていて、今でもずっと地球を救うための活動をしているというところです。ただし、12歳のときのスピーチは、本当にいいところだけ3行ぐらいしか引用されていなくて、今、こんなことをしています。引き続きやっています、ということだけです。やはり私はこのSevernさんのスピーチをほぼ全文出して、中学生がわかる英語で出しているこの教材は、非常にインパクトのあるいい教材だと思いました。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

是松教育長、お願いします。

○【是松教育長】 英語の教科書、外国語ですけれども、これはこれまでの教科書会社の中では、光村図書の教科書が採択されているということが、都内では非常に少ない出版社だったわけですが、その点で光村図書について1つ冒険的な採択になるわけです。一方、光村図書は先ほど国語のところでも評価がありましたように、非常に国語では評価も高かったですし、現に現行の国語教科書も都内では光村図書を採択しているところは大変多いという中で、光村図書としては恐らく外国語で、この新しい学習指導要領を契機にして力を入れて、採択していただきたいという大きなチャレンジを行っていたのであると思います。

そういった意味で、光村図書について私もいろいろ見てみましたが、先ほど各委員がおっしゃられたような点は確かにあると同感いたしておりますので、私も光村図書でいいと思います。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。

私も感想を申し上げます。これまでの型やノウハウを踏襲しつつ、小学校での体験的な外国語活動をいかに中学英語へとスムーズにつなげるか、またコミュニケーション能力を総合的に育成するために、さまざまな新しい取り組みを加えた教科書が多い中で、光村図書は新しい教科書観に立って、内容を大きく変えてきたと思いました。途中までは学校図書もいいのではと思いましたが、最終的に光村図書を推薦したいと思います。

大きな理由の1つは、学習した基礎・基本を活用して、さまざまなバリエーションあふれる言語活動を積み上げることで、話し手や書き手の意向などを理解し、自分の考えなどを話したり書いたりするコミュニケーション能力を育てることに、丁寧かつ真摯に取り組んでいる教科書であると思ったことが大きな理由です。

また1年生の導入では、小学校の外国語活動で聞いたり話したりしてきた英語をどんどん使うことを促してから、中学校では英語を読んだり書いたりすることを伝えて、アルファベットの文字指導へと進んでいました。家の中のもの、公園にあるものなど、知っている英語や身近なものを文字にしていく学習を進めて本編へという流れも、いいと思いました。

また各ユニットの初めには、タイトルとともに内容に関連した写真や簡単なあらすじとありますが、予告のようなものがあつて、子どもたちの興味・関心を高める工夫があると思いました。そして左上にはユニットで学習することが記してあつて、チェックもできました。さらに学習内容に関連した簡単な問題もあつて、学習に興味や見通しを持てるような工夫がありました。

本文の構成もポイントを押さえていて、シンプルでわかりやすいと思いました。また各ユニットの「Activity」では、学習したことを活用して、話す、聞く、書くなどの基本的な英語活動ができるようになっていました。活動の場面設定にバリエーションがあって、ペアや3人1組の活動も多く、英語で自然にコミュニケーションを図ることができる設定になっていました。

それから扱う語数も今回大幅にふえる中で、本文に加えて発展、応用的な言語活動例を示した「Task」や寸劇を取り入れた「Skit Time」、また「Words Words Words」では、ジャンル別にさまざまな単語をイラストとともに挙げて、会話の中で使える例文も紹介し、活用できるような工夫がありました。

今、お話しした「Skit Time」は寸劇を取り入れた言語活動で光村図書の特徴の1つだと思います。

それからもう1つ大きな特徴は、「Small Goal」として幾つかの単元の後に自己紹介スピーチをしたり、日記を書いたり、理由をつけて意見を書いたりという、目的を持って具体的な活動に取り組むページになっていました。さらにその振り返りにも特徴があると思いました。振り返りのチェック項目が非常に丁寧に設定されていました。活動の場、目的に合った項目でした。このチェック項目、つまり評価項目は、その活動のねらいでもあるわけですから、生徒にねらいとするところをしっかりと伝えると同時に非常に質の高いものであると思いました。また、その際に構成や表現を工夫した例文など必要なツールを提示してあり、生徒が主体的に取り組めるような準備がされていたところも配慮されていると思いました。

それから読み物教材も非常に充実していましたし、最初はなぞなぞ、次にイソップ童話など、いずれも完結しているもので、生徒たちにとって達成感が味わえて自信や意欲につながるのではないかと思います。また、それぞれに内容を理解できたかの設問があるところも、非常に光村図書の評価を高くした理由です。

各委員のご意見を伺いました。各委員、光村図書を推薦したいというご意見でした。外国語、英語については光村図書を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【佐藤委員長】 それでは外国語 英語は光村図書を採択することといたします。

これで中学校全教科の教科用図書の採択が終わりました。5月の連休明けより約80日間にわたり、中学校全教科の教科書を読ませていただきました。中学校教科用図書審議会から審議結果の報告をいただき、またお寄せいただいたアンケートを受けまして、きょうまで各教育委員は調査研究を進めてまいりました。審議会並びに調査研究委員会の先生方におかれましては、新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、国立市の子どもたちにふさわしい教科書について熱心な調査研究、またご審議をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

現場の先生方には、これらの教科書をさらに活用する授業をお願いしたいと思います。また教育委員会は、先生方の教材研究、授業研究など全面的に支え、子どもたちの学びを保障していけるよう、さらに努力をしてまいりたいと思います。

それでは確認のために事務局から、きょう採択いたしました教科書を読み上げていただき、確認をしたいと思います。

渡辺学校指導課長、お願いします。

○【渡辺学校指導課長】 では採択結果につきまして確認させていただきます。

国語、光村図書出版。書写、光村図書出版。社会、地理的分野、東京書籍。社会、歴史的分野、東京書籍。社会、公民的分野、東京書籍。地図、帝国書院。数学、東京書籍。理科、大日本図書。音楽、一般、教育芸術社。音楽、器楽合奏、教育芸術社。美術、開隆堂出版。保健体育、学研教育みらい。技術・家庭、技術分野、東京書籍。技術・家庭、家庭分野、教育図書。外国語、英語、光村図書出版。以上でございます。

○【佐藤委員長】 ありがとうございます。ただいま渡辺学校指導課長から全教科について採択図書を読み上げていただきましたが、間違いはございませんでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○【佐藤委員長】 それでは、ただいま渡辺学校指導課長から読み上げられました図書を、平成24年度の国立市立中学校使用教科用図書として採択いたします。

これをもちまして、中学校教科用図書の全教科書の採択が終わりました。どうもありがとうございました。

これをもちまして、本日の臨時会を閉会いたします。

なお次回の教育委員会は、定例会を8月23日火曜日、午後2時から、会場は教育委員室で開催することが決定しております。

傍聴の皆様、お暑い中を長時間にわたりお疲れさまでございました。

午後6時21分開会